

2019年度 医療科学部・保健衛生学部 IR 報告書

—2018年度 卒業生を対象としたディプロマ・
ポリシー到達度調査（就職先施設管理者による
評価）—



藤田医科大学 IR推進センター
医療科学部・保健衛生学部 IR分室

2019年 12月 27日

藤田医科大学 I R推進センター

医療科学部・保健衛生学部 I R分室の分析報告

2018年度卒業生を対象とした

「ディプロマ・ポリシーに対する到達度」 就職先施設管理者による評価

調査結果について

1. 医療科学部ディプロマ・ポリシーの到達度
 - 1-1) アンケート調査方法および概要
 - 1-2) 学部の調査結果および到達度の分析
 - 1-2-1) 学部全体としての分析
 - 1-2-2) 学科間の比較
 - 1-3) 各学科の調査結果および到達度の分析
 - 1-3-1) 臨床検査学科
 - 1-3-2) 看護学科
 - 1-3-3) 放射線学科
 - 1-3-4) リハビリテーション学科・理学療法専攻
 - 1-3-5) リハビリテーション学科・作業療法専攻
 - 1-3-6) 臨床工学科
 - 1-3-7) 医療経営情報学科
2. 学科ディプロマ・ポリシーの到達度
 - 2-1) アンケート調査方法
 - 2-2) 各学科の調査概要、調査結果および到達度の分析
 - 2-2-1) 臨床検査学科
 - 2-2-2) 看護学科
 - 2-2-3) 放射線学科
 - 2-2-4) リハビリテーション学科・理学療法専攻
 - 2-2-5) リハビリテーション学科・作業療法専攻
 - 2-2-6) 臨床工学科
 - 2-2-7) 医療経営情報学科
3. 参考資料

2018年度医療科学部卒業生を対象とした「医療科学部及び各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度」就職先施設管理者による評価アンケート結果について

本学の教育目標を達成するため、教育及び学生支援に関する諸データの統合分析と情報提供等を行い、本学の教育活動の充実発展に寄与することを目的として、藤田医科大学 I R (Institutional Research) 推進センターが設置されています。今回、下部組織の医療科学部・保健衛生学部 I R 分室では、各学科の 2018 年度卒業生を対象に 2018 年度医療科学部及び各学科のディプロマ・ポリシーに対する修得度(到達度)の就職先施設管理者による評価アンケートを行いましたので、その結果について報告いたします。

ディプロマ・ポリシー (Diploma Policy) は、高等教育機関における卒業認定・学位授与に関する方針のことです。本学では学部レベルと学科レベルにて、学生が卒業する時に最低限身につけているべき知識・能力・態度としてディプロマ・ポリシーを設定しています。

2019 年 12 月 27 日

2019 年度 藤田医科大学 I R 推進センター 医療科学部・保健衛生学部 I R 分室
山田晃司、鈴木康司、世古留美、寺本篤司、大塚 圭、日比谷 信、武藤晃一、
近藤宏美
井上知重 (キャリア支援室)

1. 医療科学部ディプロマ・ポリシーの到達度

1-1) アンケート調査方法および概要

医療科学部の2018年度卒業生を対象として、医療科学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度を、卒業生の就職先施設の管理者に評価して頂くアンケート調査を実施した(依頼文は「3. 参考資料」に掲載)。アンケート調査法はマークシート式の調査票へ記入する方式とし、医療科学部ディプロマ・ポリシーの各項目(計8項目)を設問として、それに対する就業者(2018年度本学部卒業生)全体としての到達度を6段階で評価して頂いた。すなわち1施設あたり1評価結果であり、複数の卒業生が就業した施設では、各設問は複数人の平均評価として回答頂くように説明した。なお、看護学科卒業生で本学第1教育病院へ就職したのものに対する評価については、施設単位でなく病棟単位の管理者によるアンケート調査を実施した。

アンケート調査の実施方法(時期、対象等)について表1-1に示す。

アンケート調査項目(医療科学部ディプロマ・ポリシー)を表1-2、達成度の6段階の評定尺度を表1-3に示す。

表1-1. 就職先施設管理者へのアンケート調査の実施方法

臨床検査学科	時期：7～9月 手順：郵送(返信用封筒にて回収)または直接依頼 調査施設数：63施設 郵送により調査依頼する施設：61施設 直接依頼する施設：第1教育病院(1部)・2教育病院(1部)
看護学科	時期：8月～9月 手順：郵送(返信用封筒にて回収)または直接依頼 調査施設数：22施設(52部) 郵送により調査依頼する施設：20施設 直接依頼する施設：第1教育病院(32部)：配属先病棟単位 第2教育病院(1部)：配属先病棟
放射線学科	時期：7～9月 手順：郵送(返信用封筒にて回収)または直接依頼 調査施設数：29施設 郵送により調査依頼する施設：27施設 直接依頼する施設：第1教育病院(1部)・第2教育病院(1部)
リハビリテーション学科	時期：7月～9月 手順：電話で依頼後、郵送(返信用封筒にて回収) 調査施設数：理学療法専攻 30施設、作業療法専攻 29施設 郵送により調査依頼する施設：理学 27施設、作業 26施設 直接依頼する施設：第1・第2・第3教育病院(各2部)
臨床工学科	時期：7～9月 手順：郵送(返信用封筒にて回収)または直接依頼 調査施設数：40施設 郵送により調査依頼する施設：38施設 直接依頼する施設：第1教育病院(1部)・2教育病院(1部)

医療経営情報学科	時期：7月～9月 手順：郵送（返信用封筒にて回収）または直接依頼 調査施設数：25 施設 郵送により調査依頼する施設：5 施設 直接依頼する施設：20 施設（第1・第2教育病院（各1部）を除く18施設は病院訪問時（返信用封筒にて回収））
----------	---

表2-1. アンケート調査の設問項目（医療科学部ディプロマ・ポリシー）

設問1 (専門知識)	医療人としての専門分野の学修内容について知識を修得していますか。
設問2 (倫理教養)	人間性や倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけていますか。
設問3 (科学行動)	対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価するための情報の統合と適確な判断を行えるようにそれぞれの専門領域において、必要な行動を示すことができるようになっていきますか。
設問4 (論理思考)	国際的視野に立ち、論理的な思考ができ、疑問を解決する行動をとることができるようになっていきますか。
設問5 (生涯学習)	科学の進歩および社会の医療ニーズの変化に対応し、生涯を通して自らを高めることができるようになっていきますか。
設問6 (責任感)	患者および地域住民の健康の維持・増進と健康障害からの回復に寄与するため、医療人として責任をもった行動をとることができるようになっていきますか。
設問7 (専門技能)	専門的な技能を、患者もしくは医療従事者に対して適確かつ安全に適用、提供することができるようになっていきますか。
設問8 (コミュ力)	患者・家族や保健・医療・福祉チームのメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができるようになっていきますか。

表 3 - 1. アンケート調査に用いた到達度の評定尺度 (6 段階)

6 : 完全に修得できている
5 : 概ね修得できている
4 : 最低水準は修得できている
3 : ある程度修得しているが、最低水準には届かない
2 : 十分に修得できていない
1 : 全く修得できていない

1 - 2) 学部の調査結果および到達度の分析

2018 年度医療科学部卒業生を対象とした医療科学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、アンケート調査票の回収状況を表 1 - 4 に示す。

表 4. アンケート調査票の回収状況 (学部ディプロマ・ポリシー)

学科	回収率	回収率 (昨年度)
臨床検査学科	65.1% (41/63 施設)	77.0%
看護学科	67.8% (40/59 施設・部)	85.0%
放射線学科	58.6% (17/29 施設)	56.7%
リハビリテーション学科	83.1% (49/59 施設)	100 %
臨床工学科	67.5% (27/40 施設)	75.9%
医療経営情報学科	72.0% (18/25 施設)	78.6%
計	69.8% (192/275 施設・部)	79.7%

アンケート調査の回答の度数分布を表 1 - 5 に示す。

学部全体としての各設問に対する評定尺度毎の回答結果のヒストグラムを図 1 - 1 に示す。

各設問に対する回答の割合を図 1 - 2 に示す。

表 1-5. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価アンケート結果 度数分布

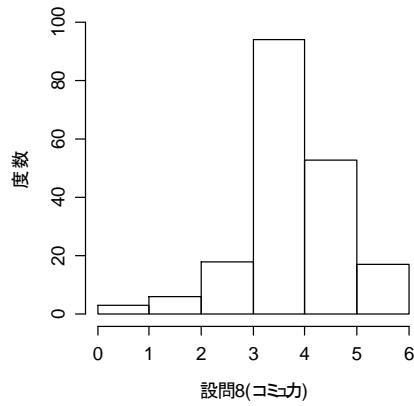
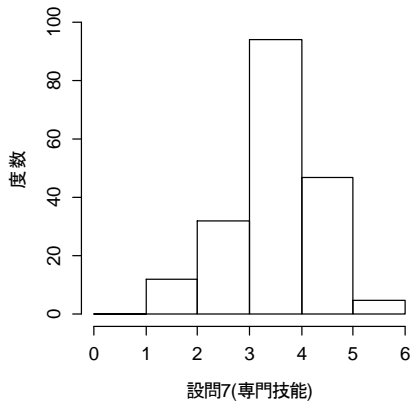
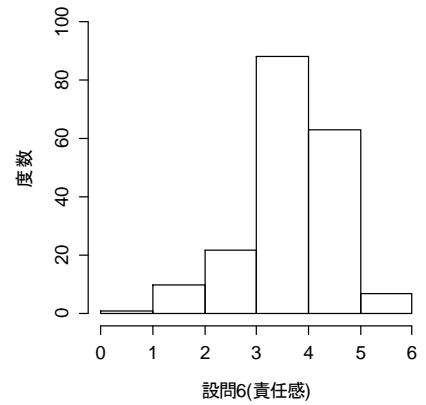
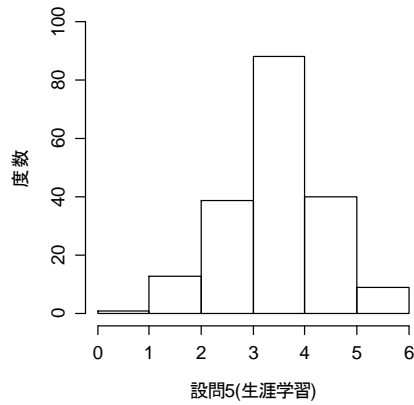
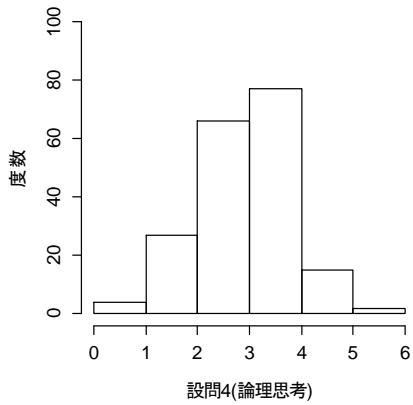
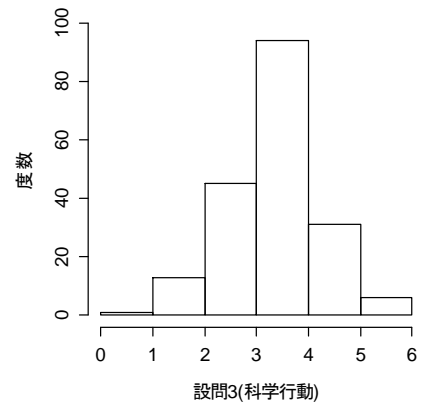
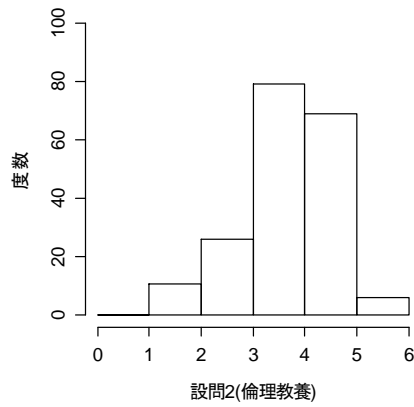
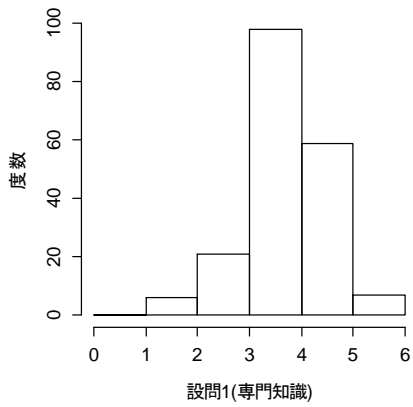
設問1 (専門知識)									設問2 (倫理教養)								
	学部	検査	看護	放射	リ理	リ作	臨工	医経		学部	検査	看護	放射	リ理	リ作	臨工	医経
6	7	2	0	0	0	2	0	3	6	6	2	0	1	0	2	0	1
5	59	17	8	6	6	7	10	5	5	69	17	8	5	11	10	9	9
4	98	20	21	8	13	16	11	9	4	79	14	20	8	9	9	13	6
3	21	2	10	2	3	0	3	1	3	26	5	7	3	1	5	3	2
2	6	0	0	1	1	1	3	0	2	11	3	4	0	2	0	2	0
1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
n	191	41	39	17	23	26	27	18	n	191	41	39	17	23	26	27	18

設問3 (科学行動)									設問4 (論理思考)								
	学部	検査	看護	放射	リ理	リ作	臨工	医経		学部	検査	看護	放射	リ理	リ作	臨工	医経
6	6	2	0	1	0	1	0	2	6	2	1	0	0	0	0	0	1
5	31	7	4	2	5	6	4	3	5	15	3	5	2	2	1	0	2
4	94	22	20	7	11	12	14	8	4	77	20	13	8	7	10	11	8
3	45	6	12	7	5	4	6	5	3	66	12	13	5	8	12	10	6
2	13	4	2	0	2	2	3	0	2	27	4	7	1	6	2	6	1
1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	4	1	1	1	0	1	0	0
n	190	41	39	17	23	25	27	18	n	191	41	39	17	23	26	27	18

設問5 (生涯学習)									設問6 (責任感)								
	学部	検査	看護	放射	リ理	リ作	臨工	医経		学部	検査	看護	放射	リ理	リ作	臨工	医経
6	9	2	0	1	1	2	0	3	6	7	2	0	0	2	2	0	1
5	40	12	8	3	5	3	5	4	5	63	14	9	9	6	9	10	6
4	88	16	16	10	13	15	10	8	4	88	17	21	5	11	12	11	11
3	39	9	11	2	2	4	8	3	3	22	5	5	3	3	2	4	0
2	13	2	3	1	2	2	3	0	2	10	3	3	0	1	1	2	0
1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0
n	190	41	39	17	23	26	26	18	n	191	41	39	17	23	26	27	18

設問7 (専門技能)									設問8 (コミュカ)								
	学部	検査	看護	放射	リ理	リ作	臨工	医経		学部	検査	看護	放射	リ理	リ作	臨工	医経
6	5	2	0	1	0	1	0	1	6	17	5	1	1	1	3	1	5
5	47	12	8	4	6	6	5	6	5	53	8	13	6	8	5	7	6
4	94	18	20	8	15	12	11	10	4	94	23	21	8	12	10	13	7
3	32	7	8	3	1	5	7	1	3	18	2	2	2	2	7	3	0
2	12	1	3	1	1	2	4	0	2	6	0	2	0	0	1	3	0
1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	2	1	0	0	0	0	0
n	190	40	39	17	23	26	27	18	n	191	40	40	17	23	26	27	18

※ 回収されたアンケート調査票のうち、検査の1施設において「設問7」「設問8」が未回答、看護の2施設において「設問1」および「設問1～設問7」が未回答、リハ作業の1施設において「設問3」が未回答、臨工の1施設において「設問5」が未回答であった。



6 : 完全に修得できている
 5 : 概ね修得できている
 4 : 最低水準は修得できている
 3 : ある程度修得しているが、最低水準には届かない
 2 : 十分に修得できていない
 1 : 全く修得できていない

図1-1. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
 就職先施設管理者評価結果 学部全体の回答分布

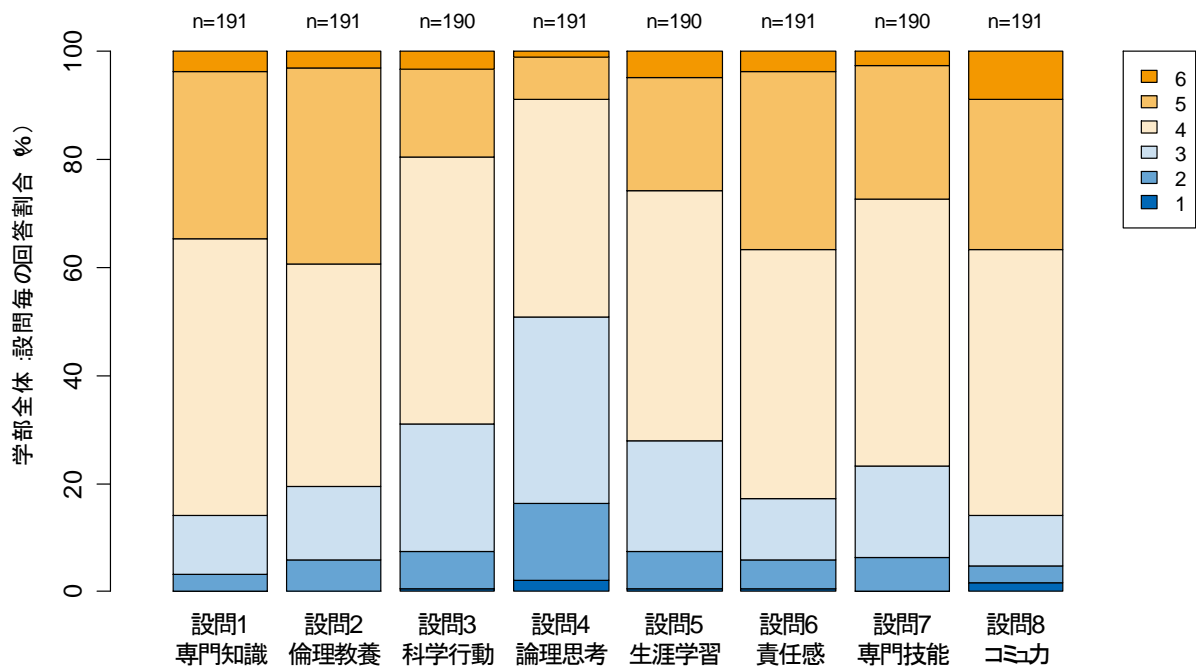


図 1 - 2. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 設問毎の回答割合

アンケート回答結果について、簡便に 6 段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行う。回答結果について、学部全体および学科ごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表 1 - 6 に示す。

設問 1 ～設問 8 について、学部全体の回答の平均値をレーダーチャートとして図 1 - 3 に示す。設問 1 ～設問 8 は、医療科学部・保健衛生学部 IR 分室より 2019 年 6 月 24 日に報告された「2019 年度医療科学部 ディプロマ・ポリシー到達度 調査結果 報告書」（以下、学生自己評価調査）における学生の自己評価による学部ディプロマ・ポリシーのアンケート調査の設問と同様である。そこで、学生自己評価調査の「表 1 - 4. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 基本統計量」より得た各設問の学部全体の平均値を合わせて図 1 - 3 に示す。

表 1-6. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度

就職先施設管理者評価結果 基本統計量

設問1 (専門知識)									設問2 (倫理教養)								
学部	検査	看護	放射	リ理	リ作	臨工	医経		学部	検査	看護	放射	リ理	リ作	臨工	医経	
平均値	4.21	4.46	3.95	4.12	4.04	4.35	4.04	4.56	平均値	4.17	4.24	3.82	4.24	4.26	4.35	4.07	4.50
標準偏差	0.80	0.67	0.68	0.83	0.75	0.78	0.96	0.83	標準偏差	0.91	0.98	0.87	0.81	0.90	0.87	0.86	0.76
中央値	4	4	4	4	4	4	4	4	中央値	4	4	4	4	4	4	4	5
最大値	6	6	5	5	5	6	5	6	最大値	6	6	5	6	5	6	5	6
最小値	2	3	3	2	2	2	2	3	最小値	2	2	2	3	2	3	2	3
n	191	41	39	17	23	26	27	18	n	191	41	39	17	23	26	27	18
設問3 (科学行動)									設問4 (倫理思考)								
学部	検査	看護	放射	リ理	リ作	臨工	医経		学部	検査	看護	放射	リ理	リ作	臨工	医経	
平均値	3.84	3.93	3.62	3.82	3.83	4.00	3.70	4.11	平均値	3.41	3.56	3.36	3.53	3.22	3.31	3.19	3.78
標準偏差	0.91	0.95	0.84	0.86	0.87	0.94	0.85	0.94	標準偏差	0.93	0.94	1.00	0.98	0.93	0.82	0.77	0.92
中央値	4	4	4	4	4	4	4	4	中央値	3	4	3	4	3	3	3	4
最大値	6	6	5	6	5	6	5	6	最大値	6	6	5	5	5	5	4	6
最小値	1	2	1	3	2	2	2	3	最小値	1	1	1	1	2	1	2	2
n	190	41	39	17	23	25	27	18	n	191	41	39	17	23	26	27	18
設問5 (生涯学習)									設問6 (責任感)								
学部	検査	看護	放射	リ理	リ作	臨工	医経		学部	検査	看護	放射	リ理	リ作	臨工	医経	
平均値	3.95	4.07	3.69	4.06	4.04	3.96	3.65	4.39	平均値	4.17	4.17	3.87	4.35	4.22	4.35	4.07	4.44
標準偏差	0.96	0.95	0.96	0.87	0.91	0.94	0.92	0.95	標準偏差	0.91	0.96	0.94	0.76	0.93	0.87	0.90	0.60
中央値	4	4	4	4	4	4	4	4	中央値	4	4	4	5	4	4	4	4
最大値	6	6	5	6	6	6	5	6	最大値	6	6	5	5	6	6	5	6
最小値	1	2	1	2	2	2	2	3	最小値	1	2	1	3	2	2	2	4
n	190	41	39	17	23	26	26	18	n	191	41	39	17	23	26	27	18
設問7 (専門技能)									設問8 (コミュ力)								
学部	検査	看護	放射	リ理	リ作	臨工	医経		学部	検査	看護	放射	リ理	リ作	臨工	医経	
平均値	4.01	4.18	3.85	4.06	4.13	3.96	3.63	4.39	平均値	4.25	4.25	4.15	4.35	4.35	4.08	4.00	4.89
標準偏差	0.88	0.86	0.83	0.94	0.68	0.94	0.95	0.68	標準偏差	0.97	1.07	0.94	0.76	0.70	1.03	0.98	0.81
中央値	4	4	4	4	4	4	4	4	中央値	4	4	4	4	4	4	4	5
最大値	6	6	5	6	5	6	5	6	最大値	6	6	6	6	6	6	6	6
最小値	2	2	2	2	2	2	2	3	最小値	1	1	1	3	3	2	2	4
n	190	40	39	17	23	26	27	18	n	191	40	40	17	23	26	27	18

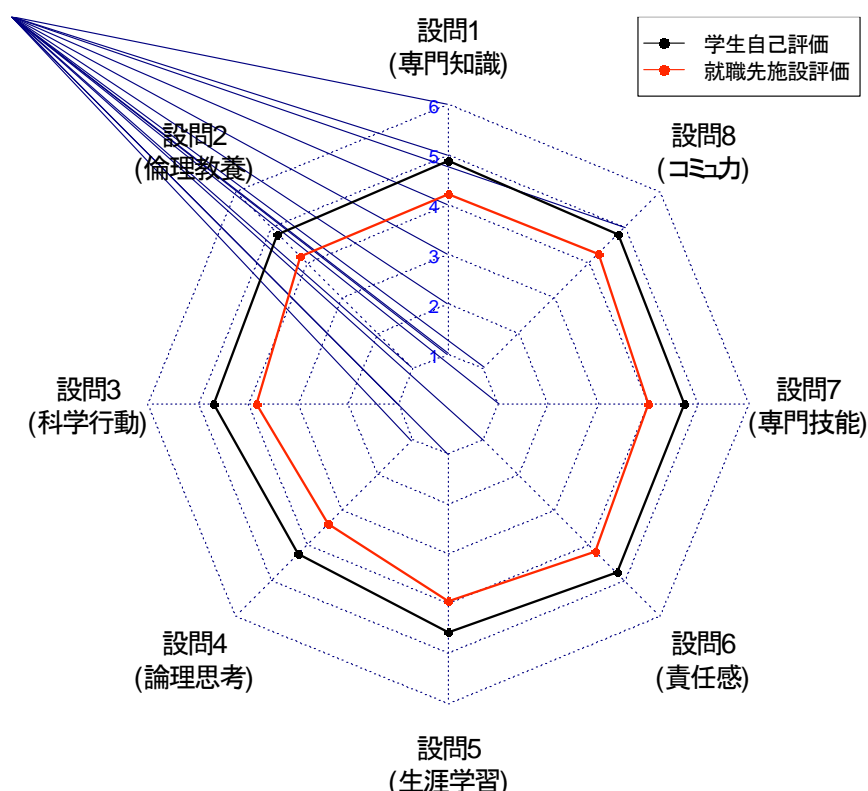


図1-3. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 評定値の平均値

1-2-1) 学部全体としての分析

医療科学部の2018年度卒業生を対象とした、医療科学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価の平均値は8項目で大きな差はなく、設問4（論理思考） 3.41 ± 0.96 から設問8（コミュカ） 4.25 ± 0.97 の範囲であった。中央値は設問4で「3：ある程度修得しているが、最低水準には届かない」であった他は、7つの設問ですべて「4：最低水準は修得できている」であった。

図1-2より、低い評価が多かったのは「設問4：国際的視野に立ち、論理的な思考ができ、疑問を解決する行動をとることができるようになっていきますか。」（平均値 3.41 ± 0.96 ）であった。比較的に高い評価が多くなったのは「設問8：患者・家族や保健・医療・福祉チームのメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができるようになっていきますか。」（平均値 4.25 ± 0.97 ）、「設問1：医療人としての専門分野の学修内容について知識を修得していますか。」（平均値 4.21 ± 0.80 ）であった。

「3：ある程度修得しているが、最低水準には届かない」以下の評価は全回答中の24.7%（377/1,525項目）となり、「4：最低水準は修得できている」以上の評価は全回答中の75.2%（1,148/1,525項目）となった。

到達度について1項目でも「1：全く修得できていない」と評価した評価者は3.13%（6/192件）と少数であった。当該6件の評価者が評価した設問すべての評価点の平均値は 2.38 ± 0.99 であり、全評価者の評価点の平均 4.00 ± 0.95 に比べ、低い評価をしている評価

者であった。

就職先施設の管理者ごとに8つの医療科学部ディプロマ・ポリシーの評価点の平均値を求め、その評価が「4：最低水準は修得できている」以上の施設は55.7%（107/192件）、4未満の施設は44.3%（85/192件）であった。

学生自己評価調査と今回の就職先施設管理者による評価結果を比較すると、設問1～設問8の全てにおいて就職先管理者による評価は学生の自己評価に比べ概ね1評価分低くなった。設問間で、学生自己評価と就職先管理者による評価に大きな偏りは見られなかった。学生は「5：概ね修得できた」と自己評価するが、就職先施設管理者は「4：最低水準は修得できている」と評価する結果となった。

1-2-2) 学科間の比較

医療科学部ディプロマ・ポリシーの8項目の設問について、回答された評定値の学科毎の分布を箱ひげ図で比較したグラフを図1-4に示す。設問ごとに回答された評定値の学科毎の割合を比較するグラフを図1-5に示す。

設問1～設問8において、各学科の評価値の中央値はほぼ4であった。放射線学科では設問6（責任感）で中央値5と高く評価、医療経営情報学科では設問2（倫理教養）・設問8（コミュ力）にて中央値5と高く評価された。設問4（論理思考）の評価は、他の設問と比べ評価が低く、看護学科、リハビリテーション学科理学療法専攻、同作業療法専攻、臨床工学科で中央値が3となった。

医療科学部ディプロマ・ポリシーの8項目について、学科間で回答の平均値に差があるかを確かめるため、F統計量を用いるすべての2群同士を比較する検定である Games-Howell 法を用いて有意差検定を行った。検定の結果、設問1（専門知識）において臨床検査学科（平均値 4.26）と看護学科（平均値 3.81）の間、設問8（コミュ力）において医療経営情報学科（平均値 4.29）と臨床工学科（平均値 4.00）の間で有意な差がみられた（いずれも $p < 0.05$ ）。

就職先施設管理者による評価は、看護学科で低い評価がなされる傾向、医療経営情報学科で高い評価がなされる傾向がみられた。

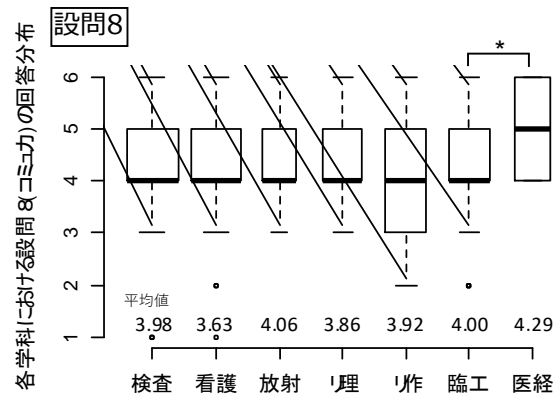
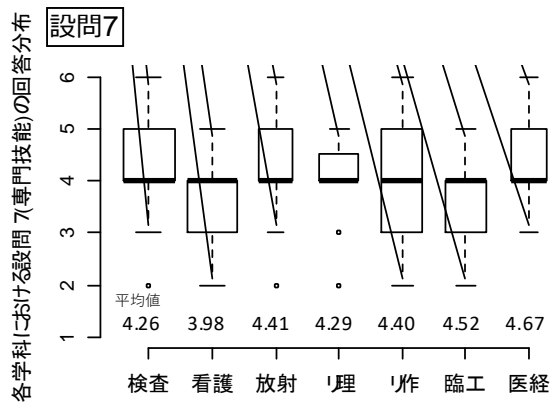
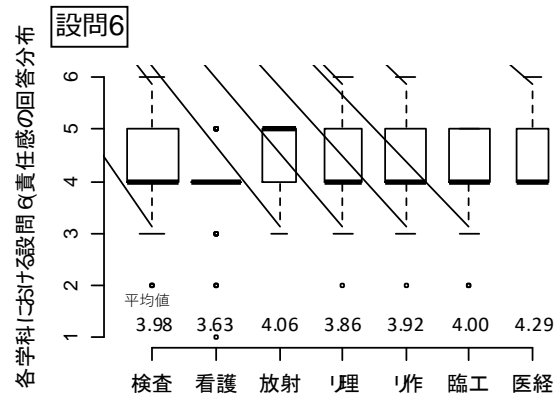
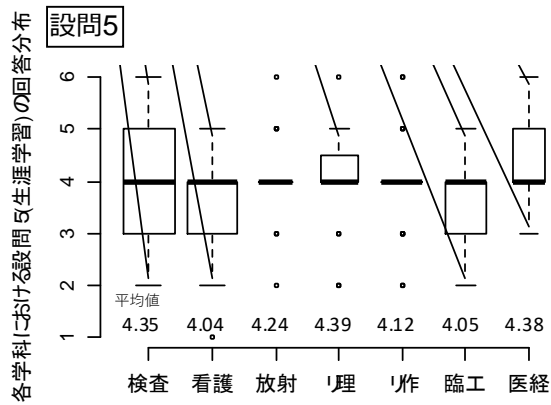
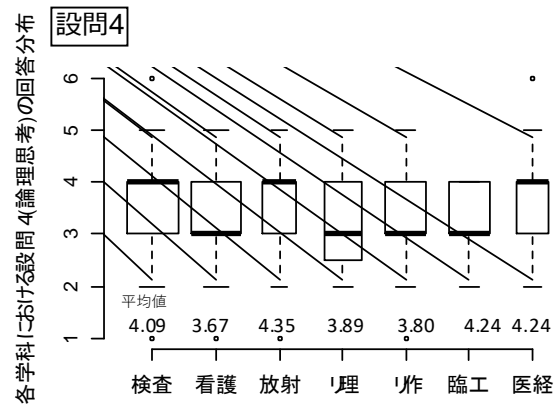
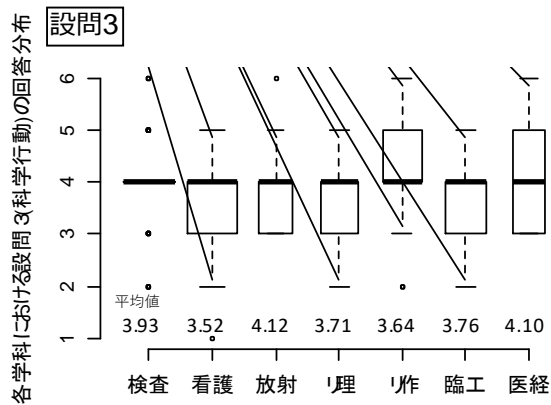
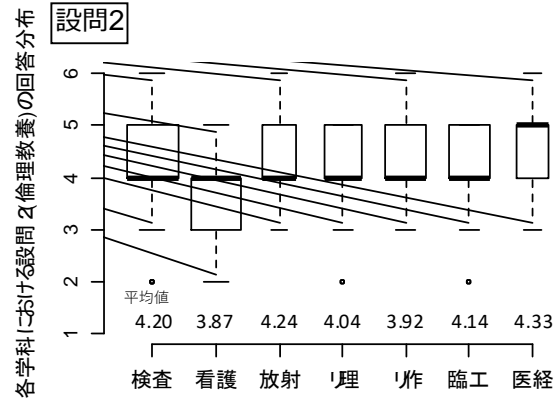
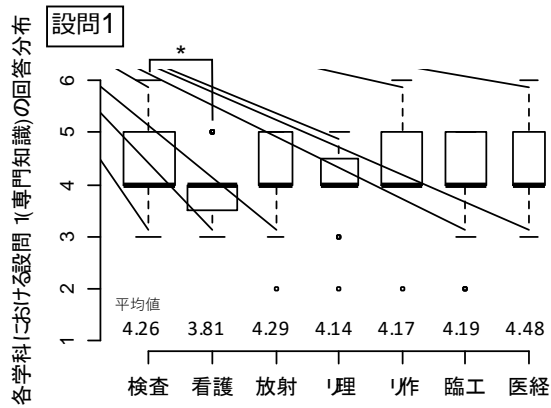


図4. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 学科毎の回答分布の比較

* : $p < 0.05$

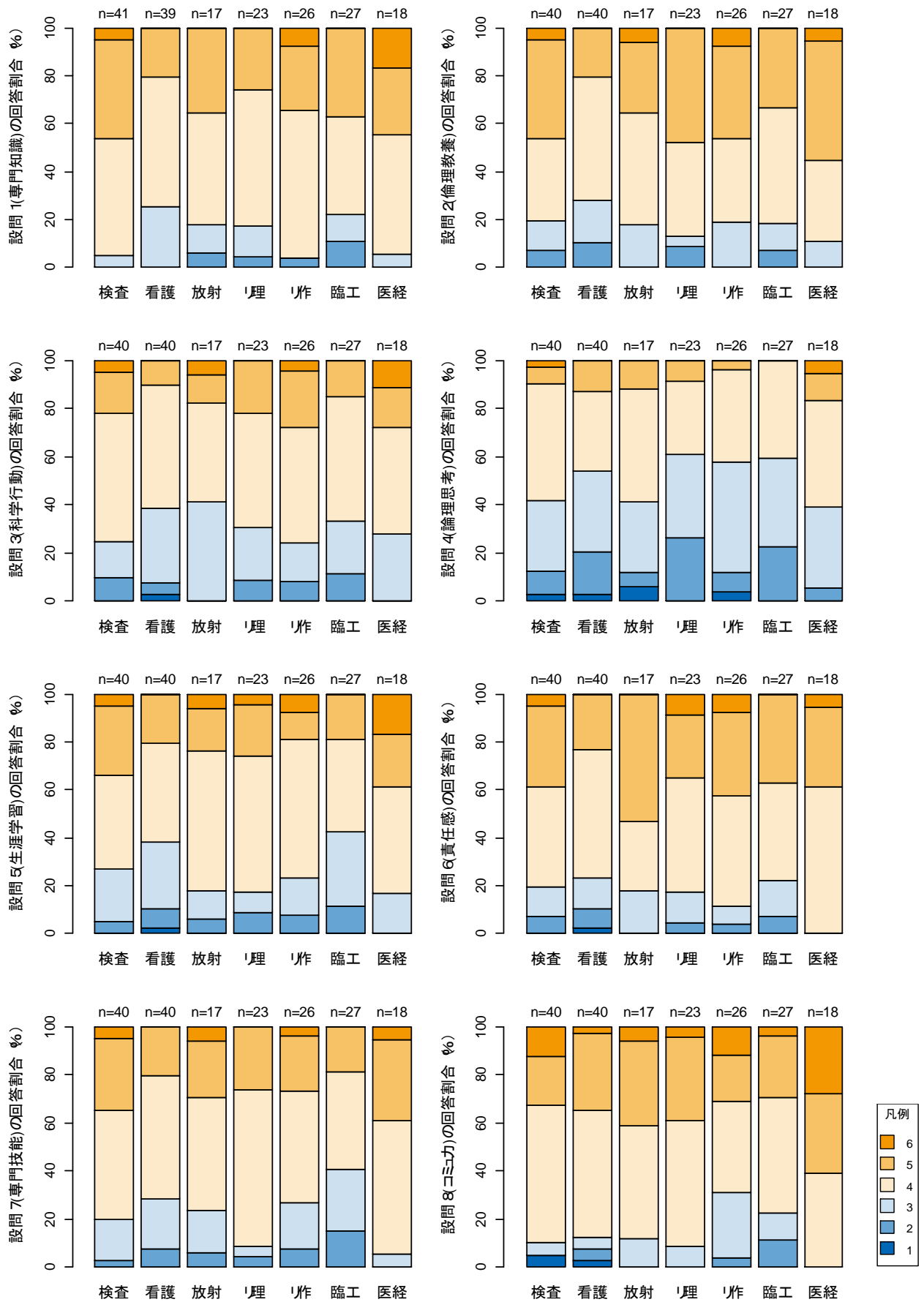


図5. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 学科毎の回答割合 (%) の比較

1-3) 各学科の調査結果および到達度の分析

医療科学部ディプロマ・ポリシーの8項目について、学科ごとに調査結果の概要と到達度の分析を示す。

1-3-1) 臨床検査学科

アンケート調査の設問1～設問8に対する回答結果の分布を箱ひげ図にて図1-6に示す。設問1～設問8について、学部全体の回答の平均値と臨床検査学科の回答の平均値、さらに学生自己評価調査における臨床検査学科の各設問の回答の平均値を合わせて比較するレーダーチャートを図1-7に示す。

設問1～設問8の全てにおいて、学科の就職先施設評定の平均値は学部全体と同等の値であった。すべての設問において、就職先施設評価値より学生の自己評価値が高い傾向を示した。

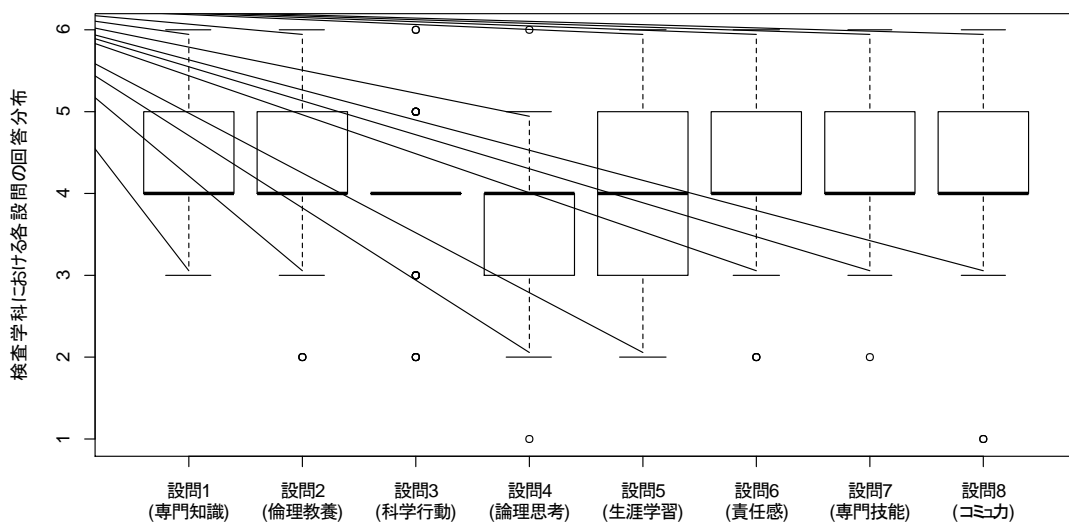


図1-6. 臨床検査学科の回答分布

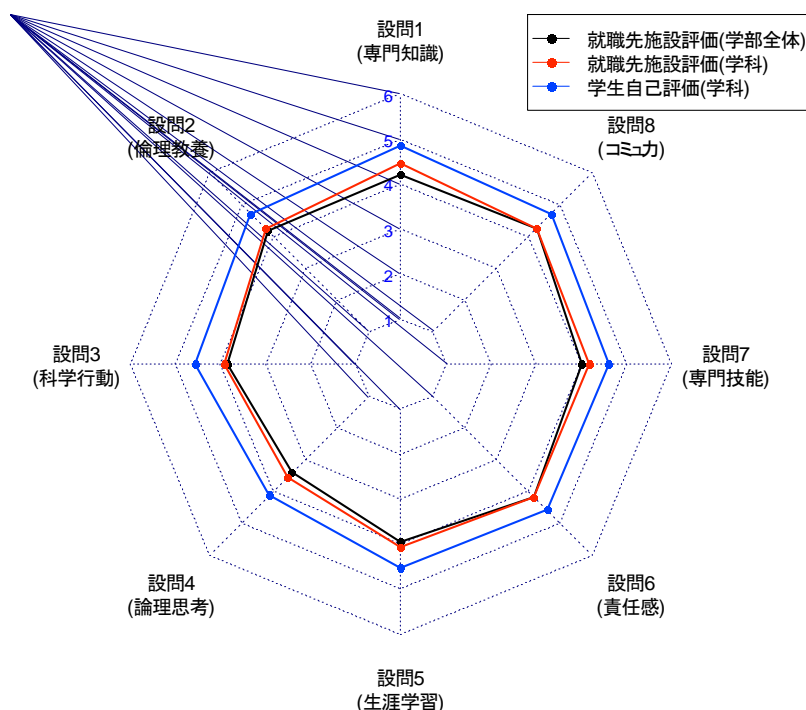


図1-7. 回答結果の臨床検査学科と学部全体との比較 (平均値)

1-3-2) 看護学科

アンケート調査の設問1～設問8に対する回答結果の分布を箱ひげ図にて図1-8に示す。設問1～設問8について、学部全体の回答の平均値と看護学科の回答の平均値、さらに学生自己評価調査における看護学科の各設問の回答の平均値を合わせて比較するレーダーチャートを図1-9に示す。

設問1～設問8の全てにおいて、学科の評定値の平均は学部全体より低い値となった。看護学科は他学科と比較し、就職先施設評価と自己評価値の差が大きい傾向を示した。

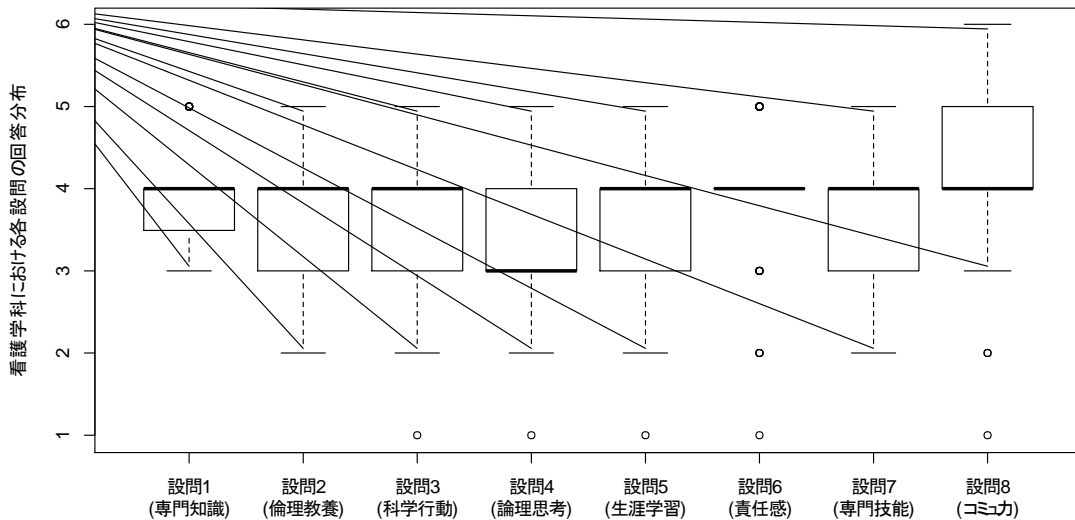


図1-8. 看護学科の回答分布

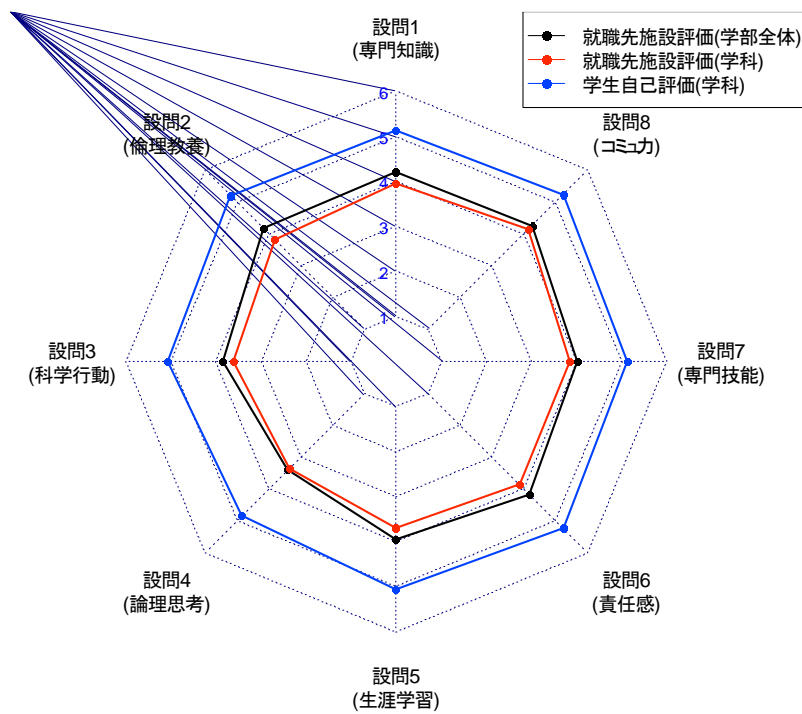


図1-9. 回答結果の看護学科と学部全体との比較 (平均値)

1-3-3) 放射線学科

アンケート調査の設問1～設問8に対する回答結果の分布を箱ひげ図にて図1-10に示す。設問1～設問8について、学部全体の回答の平均値と放射線学科の回答の平均値、さらに学生自己評価調査における放射線学科の各設問の回答の平均値を合わせて比較するレーダーチャートを図1-11に示す。

設問1～設問8の全てにおいて、学科の評定値の平均は学部全体とほぼ等しい結果となった。全ての設問において、就職先施設評価値より自己評価値が高い傾向を示した。

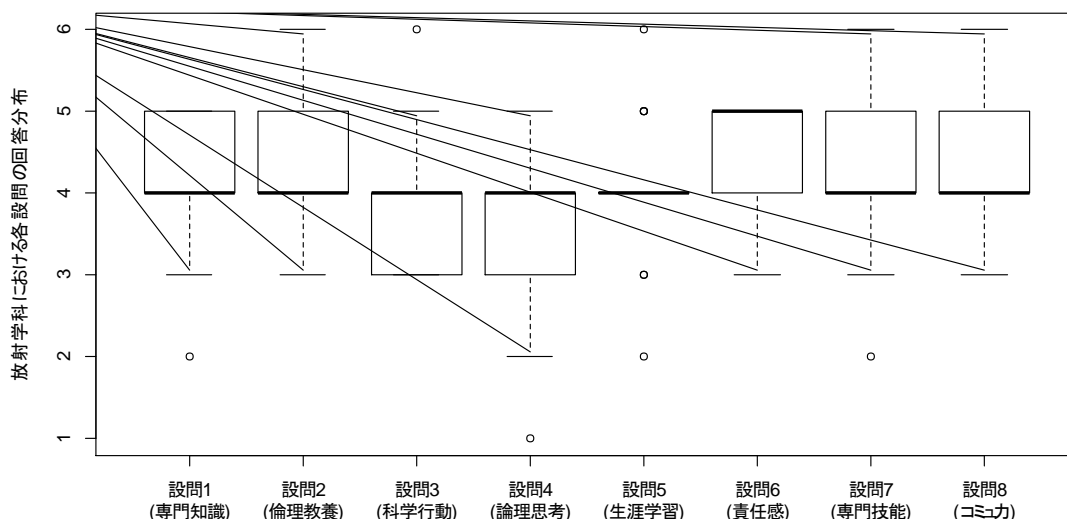


図1-10. 放射線学科の回答分布

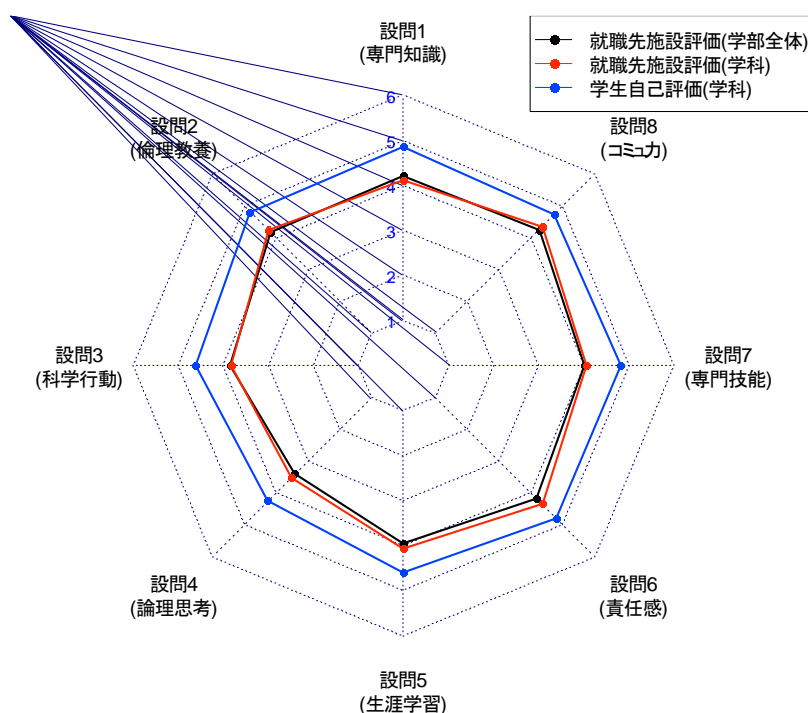


図1-11. 回答結果の放射線学科と学部全体との比較 (平均値)

1-3-4) リハビリテーション学科・理学療法専攻

アンケート調査の設問1～設問8に対する回答結果の分布を箱ひげ図にて図1-12に示す。設問1～設問8について、学部全体の回答の平均値とリハビリテーション学科・理学療法専攻の回答の平均値、さらに学生自己評価調査における理学療法専攻の各設問の回答の平均値を合わせて比較するレーダーチャートを図1-13に示す。

設問1～設問8の全てにおいて、学科の評定値の平均は学部全体と同等の値となった。全ての設問において、就職先施設評価値より自己評価値が高い傾向を示した。

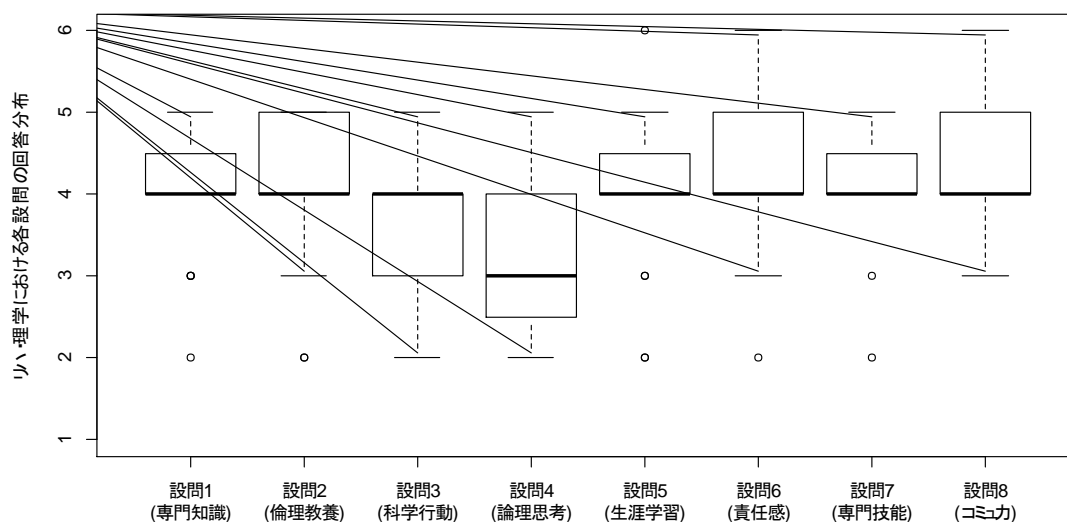


図1-12. リハビリテーション学科理学療法専攻の回答分布

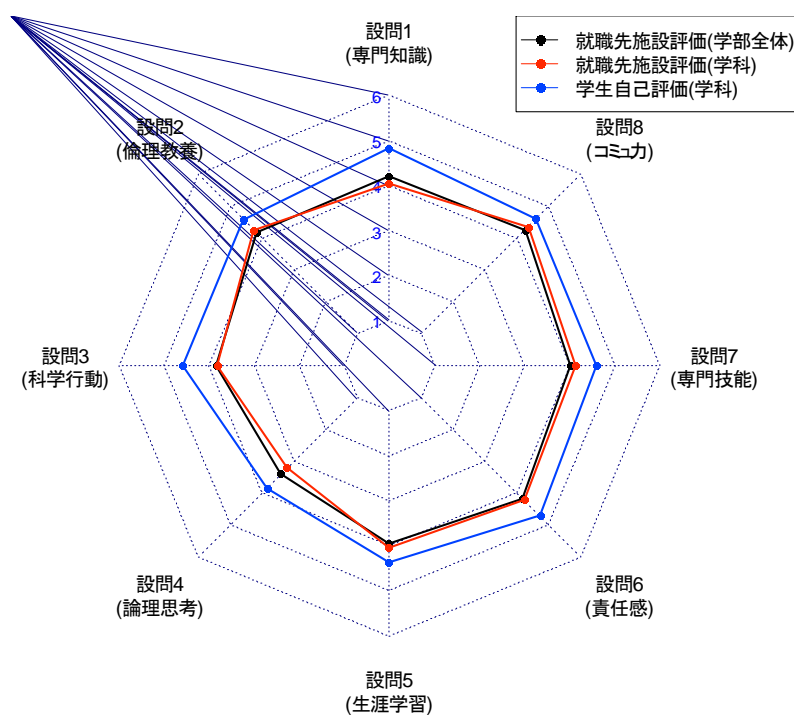


図1-13. 回答結果のリハビリテーション学科理学療法専攻と学部全体との比較（平均値）

1-3-5) リハビリテーション学科・作業療法専攻

アンケート調査の設問1～設問8に対する回答結果の分布を箱ひげ図にて図1-14に示す。設問1～設問8について、学部全体の回答の平均値とリハビリテーション学科・作業療法専攻の回答の平均値、さらに学生自己評価調査における作業療法専攻の各設問の回答の平均値を合わせて比較するレーダーチャートを図1-15に示す。

設問1～設問8の全てにおいて、学科の評定値の平均は学部全体と同等の値となった。全ての設問において、就職先施設評価値より自己評価値が高い傾向を示した。

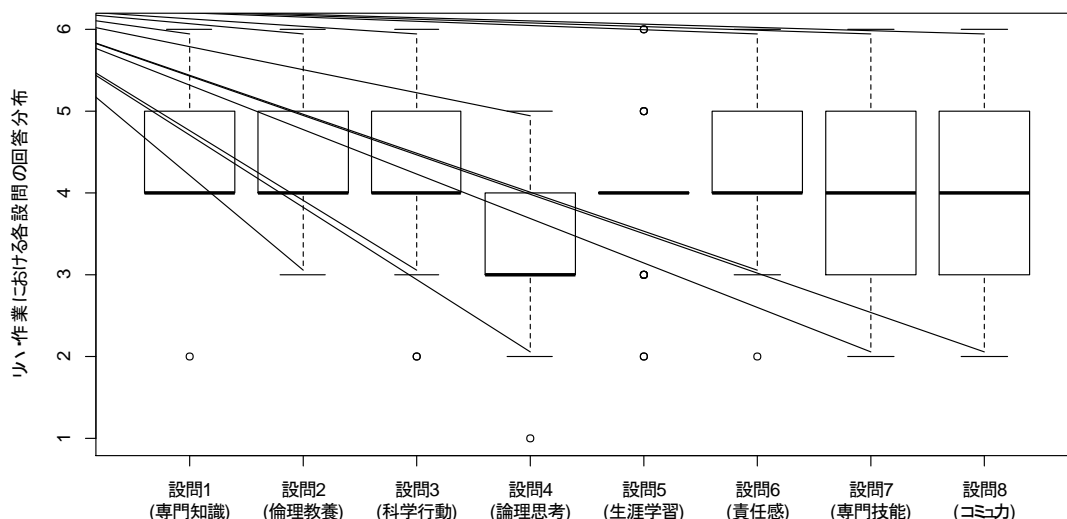


図1-14. リハビリテーション学科作業療法専攻の回答分布

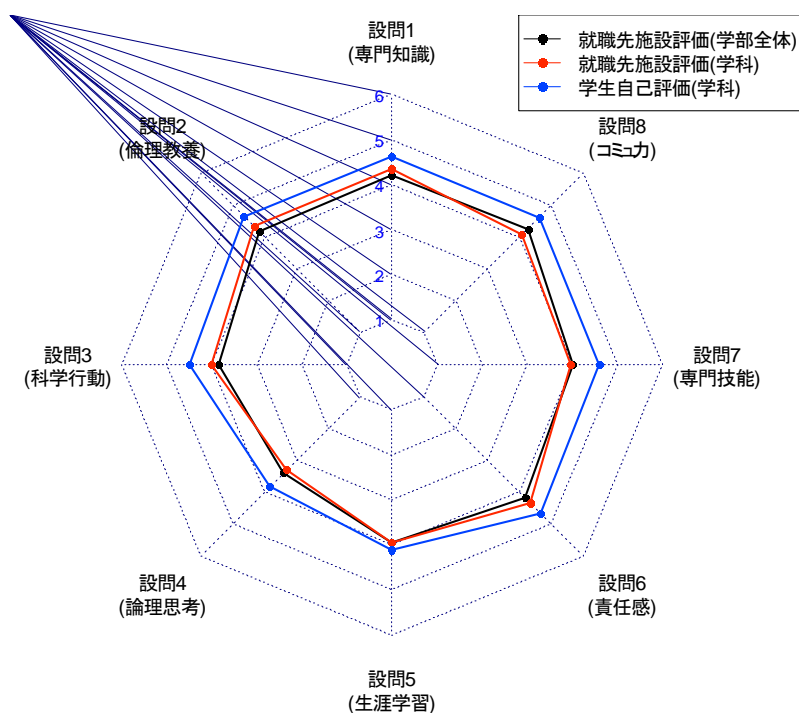


図1-15. 回答結果のリハビリテーション学科作業療法専攻と学部全体との比較 (平均値)

1-3-6) 臨床工学科

アンケート調査の設問1～設問8に対する回答結果の分布を箱ひげ図にて図1-16に示す。設問1～設問8について、学部全体の回答の平均値と臨床工学科の回答の平均値、さらに学生自己評価調査における臨床工学科の各設問の回答の平均値を合わせて比較するレーダーチャートを図1-17に示す。

設問1～設問8の全てにおいて、学科の評定値の平均は学部全体より若干低値を示した。全ての設問において、就職先施設評価値より自己評価値が約1ポイント高く、論理思考では約1.5高値を示した。

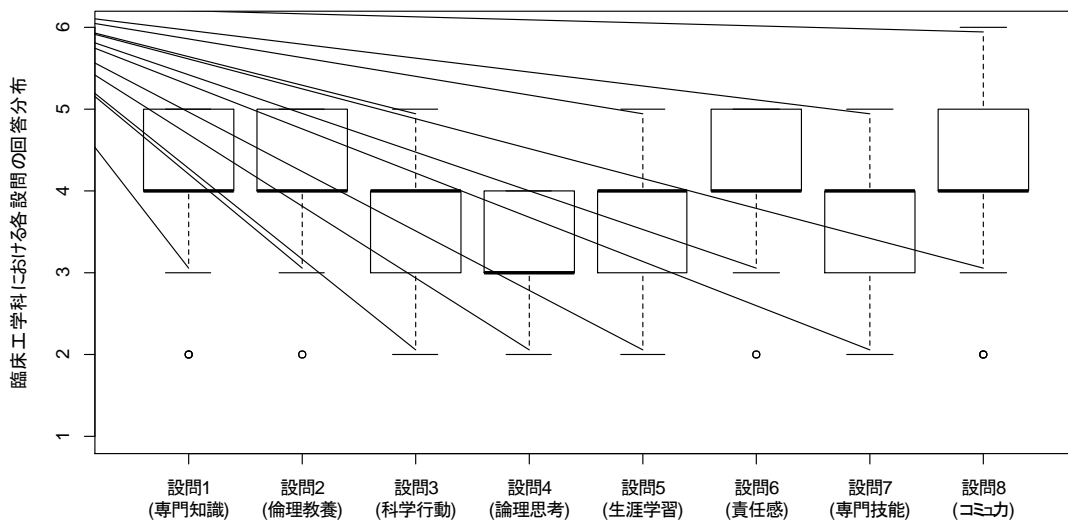


図1-16. 臨床工学科の回答分布

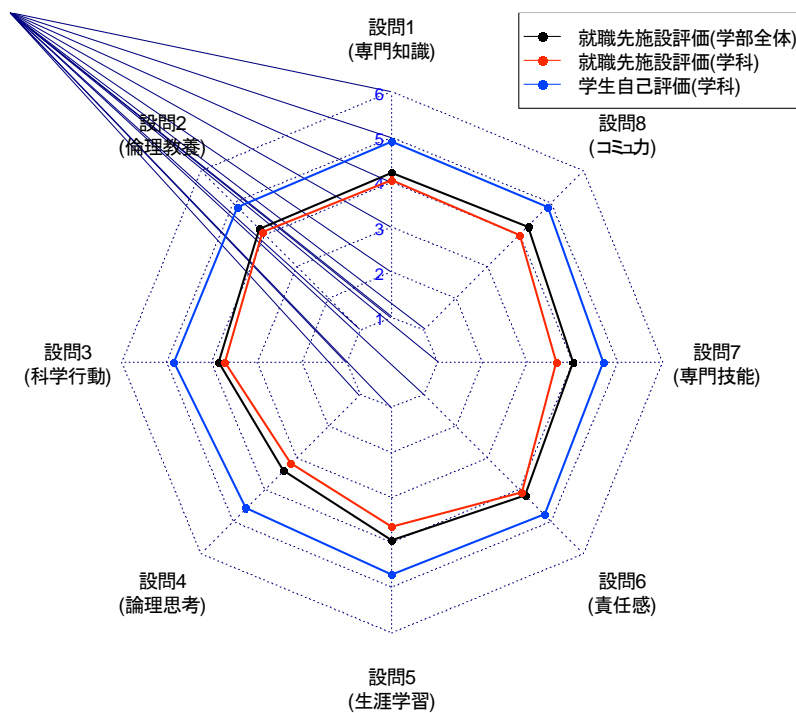


図1-17. 回答結果の臨床工学科と学部全体との比較 (平均値)

1-3-7) 医療経営情報学科

アンケート調査の設問1～設問8に対する回答結果の分布を箱ひげ図にて図1-18に示す。設問1～設問8について、学部全体の回答の平均値と医療経営情報学科の回答の平均値、さらに学生自己評価調査における医療経営情報学科の各設問の回答の平均値を合わせて比較するレーダーチャートを図1-19に示す。

設問1～設問8の全てにおいて、学科の就職先施設評価の平均値は学部全体より高い傾向を示した。また、設問4～設問8については就職先施設評価の平均値が学生自己評価の値よりも高い値を示し、設問1～設問3についても就職先施設評価は学生自己評価とほぼ等しくなった。医療経営情報学科の2018年度の卒業生に対する就職先施設評価は他学科に比べて高い傾向を示した。

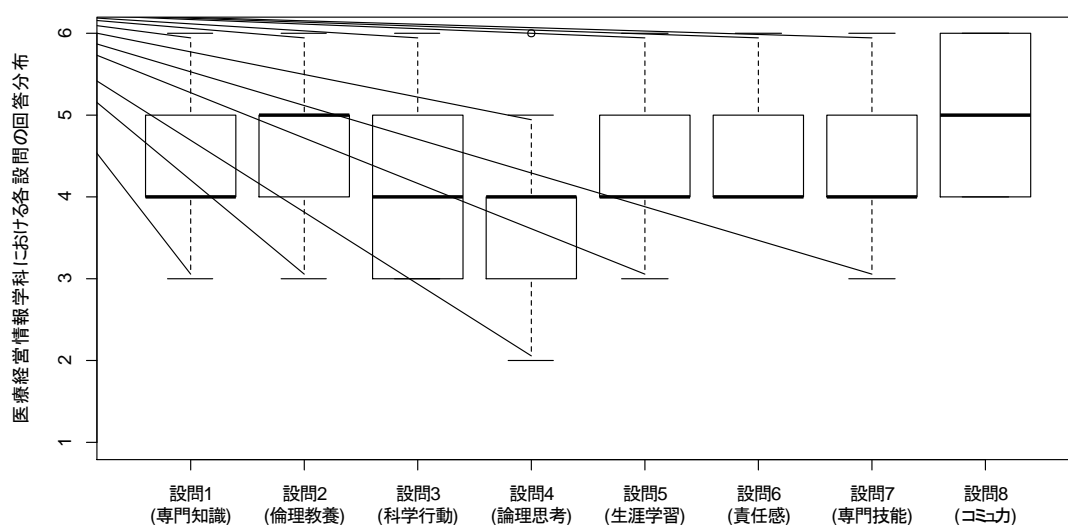


図1-18. 医療経営情報学科の回答分布

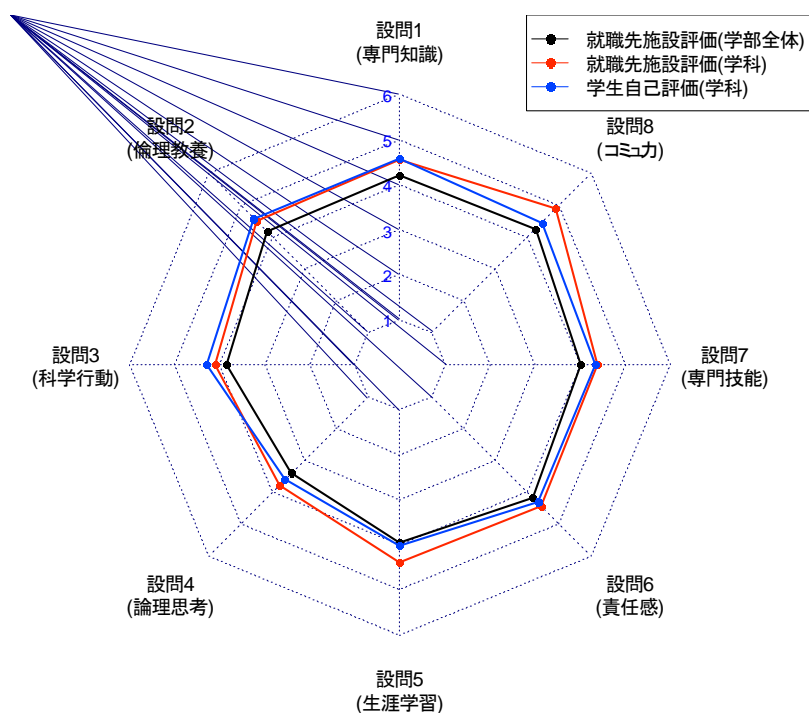


図1-19. 回答結果の医療経営情報学科と学部全体との比較 (平均値)

2. 学科ディプロマ・ポリシーの到達度

2-1) アンケート調査方法

医療科学部の2018年度卒業生を対象として、各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度を、卒業生の就職先施設の管理者に評価して頂くアンケート調査を実施した。アンケート調査法はマークシート式の調査票へ記入する方式とし、学科ディプロマ・ポリシーの各項目を設問として、それに対する就業者（2018年度本学部卒業生）全体としての到達度を6段階で評価して頂いた。すなわち1施設あたり1評価結果であり、複数の卒業生が就業した施設では、各設問は複数人の平均評価として回答頂くように説明した。なお、看護学科卒業生で本学第1教育病院へ就職したものに対する評価については、施設単位でなく病棟単位の管理者によるアンケート調査を実施した。

アンケート調査の実施方法（時期、対象等）は、医療科学部ディプロマ・ポリシーの到達度調査と同様である（表1-1）。また、達成度の6段階の評定尺度も同様である（表1-3）。2018年度医療科学部卒業生を対象とした、各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、アンケート調査票の回収状況を表2-1に示す。

表2-1. アンケート調査票の回収状況（各学科ディプロマ・ポリシー）

学科	回収率	回収率 (昨年度)
臨床検査学科	58.7% (37/63 施設)	77.0%
看護学科	72.9% (43/59 施設・部)	85.0%
放射線学科	58.6% (17/29 施設)	56.7%
リハビリテーション学科	84.7% (50/59 施設)	100%
臨床工学科	65.0% (26/40 施設)	75.9%
医療経営情報学科	76.0% (19/25 施設)	78.6%
計	69.8% (192/275 施設・部)	79.7%

2-2) 各学科の調査概要、調査結果および到達度の分析

2-2-1) 臨床検査学科

アンケート調査項目（臨床検査学科ディプロマ・ポリシー）を表2-2に示す。

2018年度臨床検査学科卒業生を対象とした臨床検査学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、設問1～設問7に対する評価値の分布を箱ひげ図にて図2-1に示す。各設問に対する回答の割合を図2-2に示す。

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、設問ごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表

2-3に示す。設問1～設問7について、回答された評定値の平均値および学生自己評価調査における各設問の回答の平均値を合わせてレーダーチャートとして図2-3に示す。

2018年度臨床検査学科4年の臨床検査学科ディプロマ・ポリシーに対する就職先施設管理者による評価は、すべての設問の評定平均値は「4：最低水準は修得できた」以上であった。中央値については、設問2で「5：概ね修得できている」と高く、他の設問では「4：最低水準は修得できた」という結果であった。回答割合を見ると、すべての設問で学科ディプロマ・ポリシーについては最低限またはそれ以上達成できているという評価である4以上の回答が過半数を占めていた。以上のことから学科ディプロマ・ポリシーは最低限達成できている状況と判断する。設問2（倫理責任）が最も平均値が高く、まじめに取り組む姿勢が評価されていると思われる。次いで設問5（生涯学習）と設問1（知識技能）が「4：最低水準は修得できた」以上の回答割合が80%以上であり、他の設問に比べ高い評価であった。しかし、設問3（チーム医療）、設問4（地域貢献）、設問5（国際探求）に関しては「4：最低水準は修得できた」以上の回答割合が80%未満であり、物足りなさを感じている施設が若干多いと思われた。就職先施設評価値と学生の自己評価値を就職比較すると、すべての設問で就職先施設評価値のほうが低い傾向にあり、最も差が大きかったものは設問3（チーム医療）であった。社会が求める水準について教育を通して学生に伝えていく必要があると考える。高度化・多様化する医療現場や社会は常に変化しており、その変化に対応するために必要な知識・技術・思考力の重要性は増している。社会のニーズに対応した人材育成を目指し、今後も教育基盤の整備及び教育内容の改善を継続して行っていく必要があると考える。

表2-2. アンケート調査の設問項目（臨床検査学科ディプロマ・ポリシー）

設問1 (知識技能)	幅広い教養を身に付け、臨床検査を実践するために必要な知識と技能が身についていますか。
設問2 (倫理責任)	生命の尊さを深く認識し、医療人として高い倫理感と強い責任感を有し、謙虚で誠実に医療を実践することができるようになっていきますか。
設問3 (チーム医療)	医療職種の専門性および役割を理解し、チーム医療の一員としての自覚を有し、患者中心の専門職連携を実践することができるようになっていきますか。
設問4 (地域貢献)	地域医療の重要性を理解し、医学・臨床検査学を通じて地域社会と連携した医療・福祉を実践し、地域社会に貢献することができるようになっていきますか。
設問5 (生涯学習)	常に進歩し続ける医学・臨床検査に関心を有し、生涯にわたり自ら成長することができるようになっていきますか。
設問6 (国際探求)	研究的探究心を失うことなく、常に向上心をもち、グローバルに活躍する意志と積極性が身についていますか。
設問7 (判断解決)	科学的根拠に基づき、様々な医学・臨床検査学に関する問題や課題の解決に向けた思考や判断能力が身についていますか。

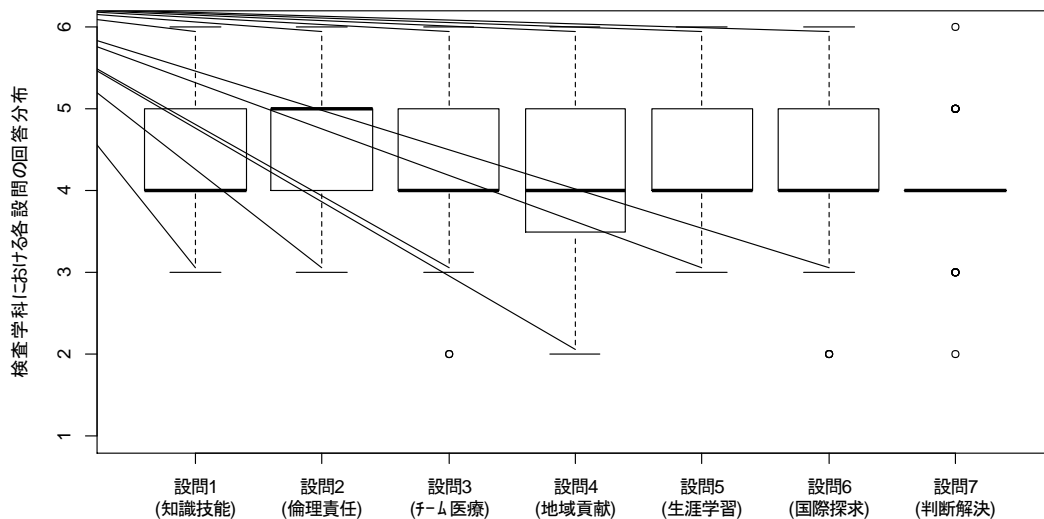


図 2 - 1. 臨床検査学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 回答分布

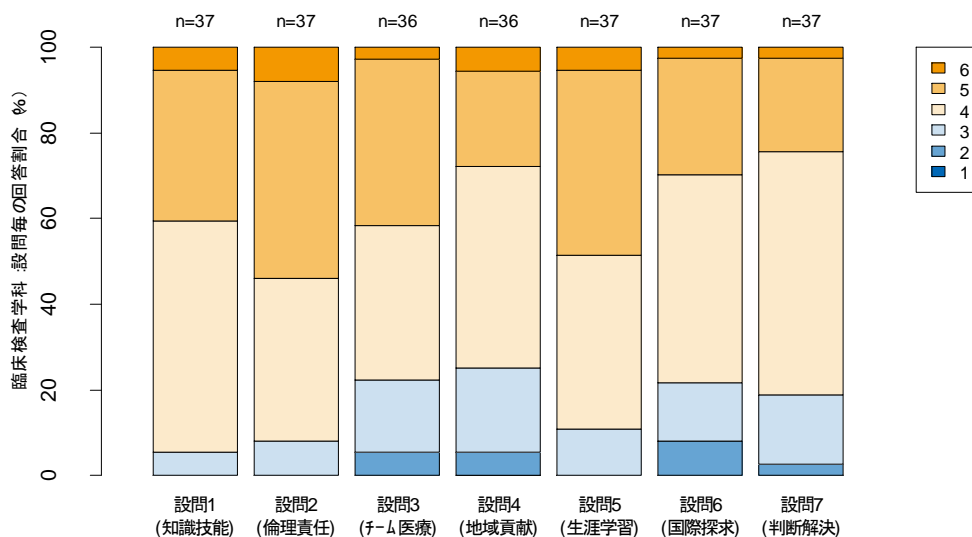
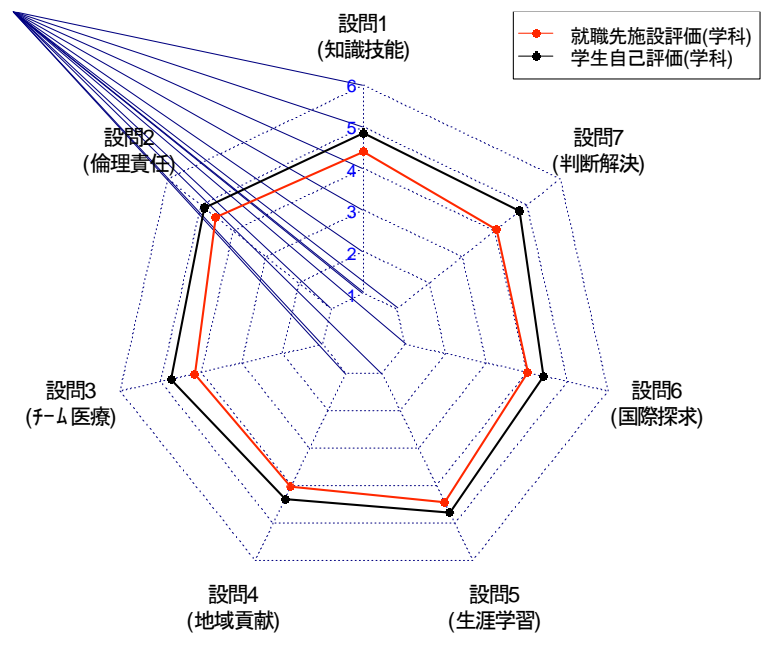


図 2 - 2. 臨床検査学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 設問毎の回答割合

表 2 - 3. 臨床検査学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 基本統計量

検査	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7
平均値	4.41	4.54	4.17	4.03	4.43	4.03	4.05
標準偏差	0.68	0.76	0.93	0.93	0.75	0.91	0.77
中央値	4	5	4	4	4	4	4
最大値	6	6	6	6	6	6	6
最小値	3	3	2	2	3	2	2
n	37	37	36	36	37	37	37



検査	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7
就職先施設評価 a	4.41	4.54	4.17	4.03	4.43	4.03	4.05
学生自己評価 b	4.84	4.88	4.73	4.35	4.73	4.40	4.76
差 a-b	-0.43	-0.33	-0.56	-0.32	-0.30	-0.38	-0.71

図 2 - 3. 臨床検査学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 評定値の平均値

2-2-2) 看護学科

アンケート調査項目（看護学科ディプロマ・ポリシー）を表2-4に示す。

2018年度看護学科卒業生を対象とした看護学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、設問1～設問8に対する評価値の分布を箱ひげ図にて図2-4に示す。各設問に対する回答の割合を図2-5に示す。

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、設問ごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表2-5に示す。設問1～設問8について、回答された評定値の平均値および学生自己評価調査における各設問の回答の平均値を合わせてレーダーチャートとして図2-6に示す。

2018年度看護学科4年の看護学科ディプロマ・ポリシーに対する就職先施設管理者による評価は、設問4以外の項目すべて評定値の平均値は4以下であり、3.16～4.02であった。中央値をみると設問1（知識技能）、設問2（看護基礎）、設問3（自立責任）、設問4（生涯学修）、設問5（コミユカ）、設問7（地域貢献）、設問8（国際探求）は「4：最低水準は修得できている」であり、設問6（協調指導）では「3：ある程度は修得しているが、最低水準には届かない」となった。学科ディプロマ・ポリシーは概ね達成できているという評価にはなるが、平均値は低い結果となった。アンケートの実施時期は、8～9月に集中して実施したため、調査時期は就職し3～4か月後のほぼ同一条件である。臨地での実践は各医療機関の研修体制もあり、対象者に対する設問6（協調指導）、設問7（地域貢献）、設問8（国際探求）は十分に実践できないと思われる。設問3（自立責任）、設問4（生涯学修）については、他の設問より評価は高く今後さらに評価の水準を高める必要がある。就職先施設評価値と学生の自己評価値を比較すると、すべての項目で就職先施設評価値が低く、その差は1.13から1.80あり、設問8（国際探求）では差が一番大きかった。社会が求める水準について教育を通して学生に伝えていく必要があると考える。

表 2-4. アンケート調査の設問項目（看護学科ディプロマ・ポリシー）

設問 1 (知識技能)	看護職の基盤となる知識と技能が身についていますか。
設問 2 (看護基礎)	看護の対象である人を総合的に理解し、基礎的な看護を実践できるようになっていますか。
設問 3 (自律責任)	人権を擁護する看護の責任と役割、および自律性を認識し、看護職としての責任ある言動をとることができるようになっていきますか。
設問 4 (生涯学習)	専門職業人としての自己をみつめ、自主的かつ持続的な学修を生涯継続していく姿勢を身につけていますか。
設問 5 (コミュ力)	多様な価値観があることを受入れ、適切な援助的コミュニケーションをとることができるようになっていきますか。
設問 6 (協調指導)	保健医療福祉のチームに関わる人たちと協調し、リーダーシップやフォロワーシップを発揮することができるようになっていきますか。
設問 7 (地域貢献)	地域包括ケアの概念を基盤に、人々の生活の質を高める看護職の役割を担うことができるようになっていきますか。
設問 8 (国際探求)	国際的視点に根ざして日本の保健・医療・福祉の動向に関心を持ち、疑問を解決する姿勢をもち続けることができるようになっていきますか。

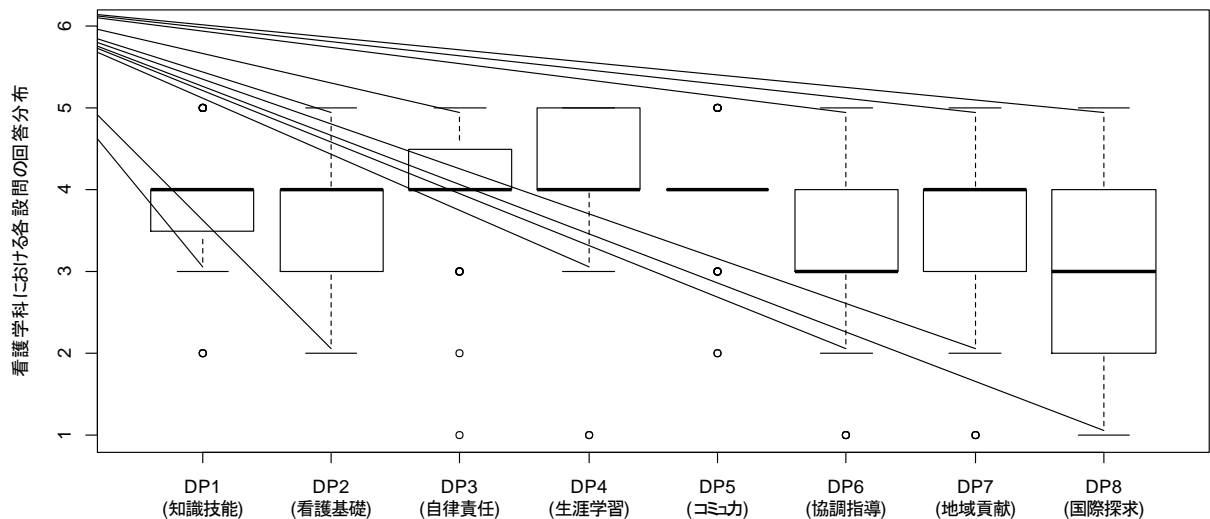


図 2-4. 看護学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 回答分布

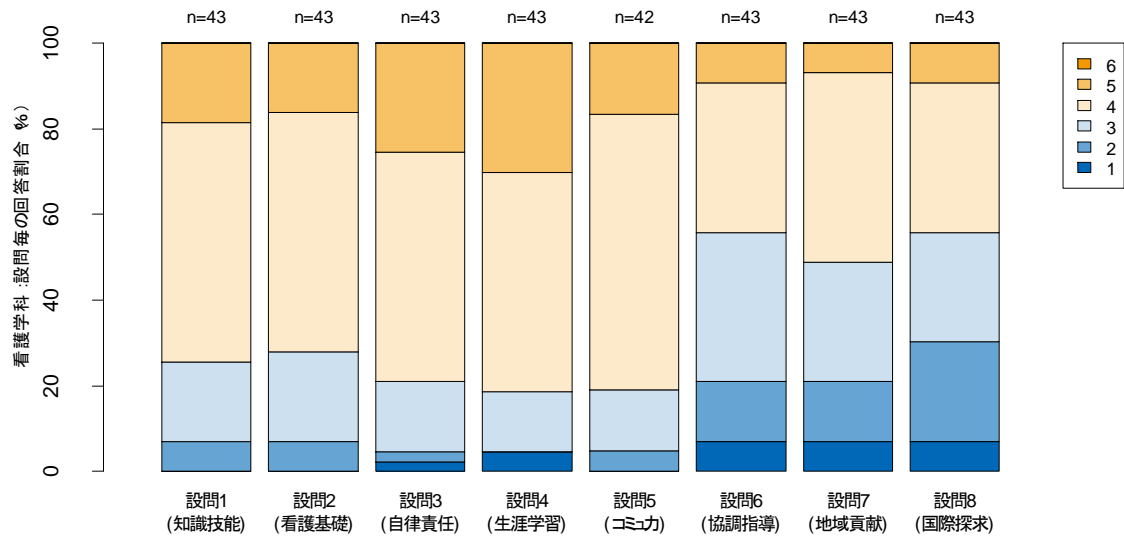
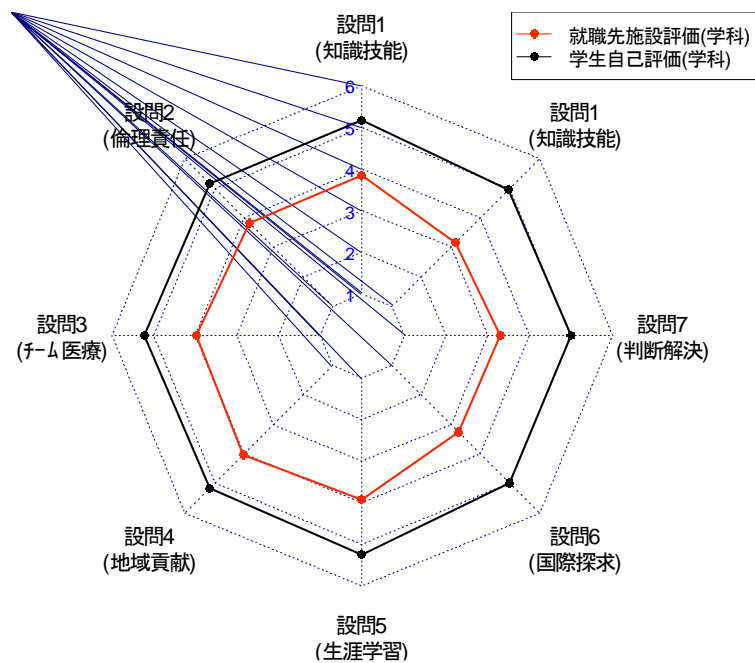


図 2-5. 看護学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 設問毎の回答割合

表 2-5. 看護学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 基本統計量

看護	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8
平均値	3.86	3.81	3.98	4.02	3.93	3.26	3.30	3.16
標準偏差	0.79	0.79	0.85	0.93	0.70	1.04	1.02	1.10
中央値	4	4	4	4	4	3	4	3
最大値	5	5	5	5	5	5	5	5
最小値	2	2	1	1	2	1	1	1
n	43	43	43	43	42	43	43	43



看護	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8
就職先施設評価 a	3.86	3.81	3.98	4.02	3.93	3.26	3.30	3.16
学生自己評価 b	5.16	5.17	5.21	5.16	5.24	4.99	4.99	4.96
差 a-b	-1.29	-1.35	-1.24	-1.13	-1.31	-1.73	-1.69	-1.80

図 2 - 6. 看護学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 評定値の平均値

2-2-3) 放射線学科

アンケート調査項目（放射線学科ディプロマ・ポリシー）を表2-6に示す。

2018年度放射線学科卒業生を対象とした放射線学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、設問1～設問5に対する評価値の分布を箱ひげ図にて図2-7に示す。各設問に対する回答の割合を図2-8に示す。

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、設問ごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表2-7に示す。設問1～設問5について、回答された評定値の平均値および学生自己評価調査における各設問の回答の平均値を合わせてレーダーチャートとして図2-9に示す。

2018年度放射線学科卒業生の放射線学科ディプロマ・ポリシーに対する就職先施設管理者による評価は、表2-7の結果にて、すべての設問の中央値が「4：最低水準は修得できた」を示していることから、学科ディプロマ・ポリシーは最低限達成できている状況と判断できる。設問1（倫理礼節）、設問2（チーム医療）については「5：概ね修得できた」～「6：完全に修得できた」の割合が約70%と他の設問よりも高く、倫理礼節やチームで強力する力を身につけていると評価されていることがわかる。設問3（知能技能）、設問4（判断解決）、設問5（国際探求）の回答は、「4：最低水準は修得できた」～「6：完全に修得できた」と評価した施設の割合に顕著な差は無い。設問4（判断解決）、設問5（国際探求）については、5～10%の施設が「1：全く修得できていない」と回答している。少子化が加速しているにもかかわらず診療放射線技師育成校は増えている。今後は自ら考え判断する力やグローバル化に関する、資格取得以外の要素をさらに強化し、職場で輝く人材を育成していく必要がある。

表2-6. アンケート調査の設問項目（放射線学科ディプロマ・ポリシー）

設問1 (倫理態度)	医療専門職に相応しい倫理観や他者を思いやる心遣いや礼節を身につけていますか。
設問2 (チーム医療)	チーム医療の一員として他の医療専門職と協働して医療を担う責任感と協調性、優れたコミュニケーション能力を身につけていますか。
設問3 (知識技能)	診療放射線技師が担う診療画像検査業務および画像診断支援業務、放射線治療支援業務、放射線管理業務に幅広く対応できる高度な知識と技術が身につけていますか。
設問4 (判断解決)	診療放射線技術科学に関する論理的な課題解決思考をもち、卓越した専門性を発揮して放射線関連業務に携わることができるようになっていますか。
設問5 (国際探求)	医療科学における真理の探求心と創造力を兼ね備え、診療放射線技術学に関する国際的視野が身につけていますか。

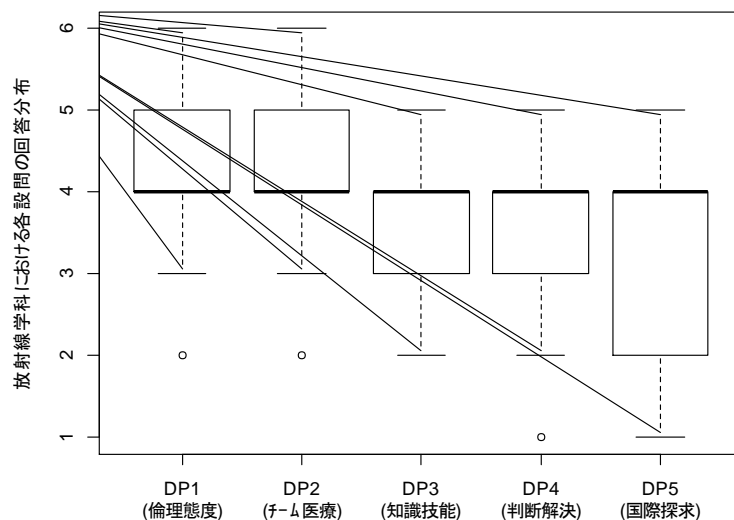


図2-7. 放射線学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 回答分布

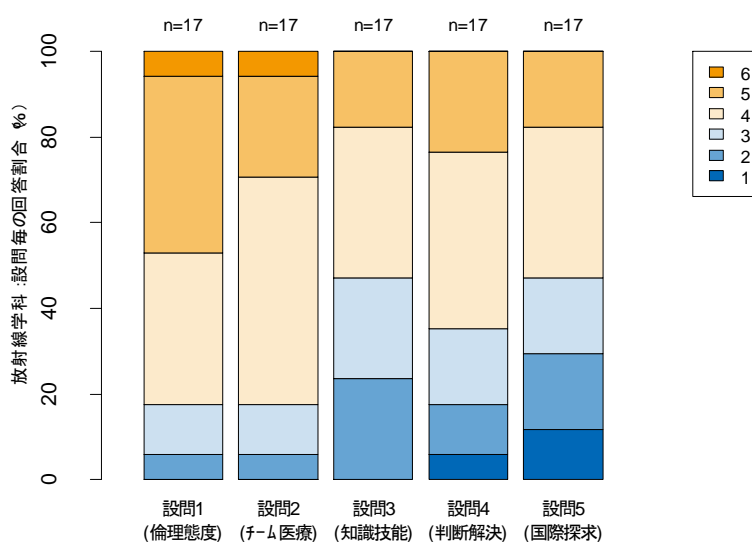
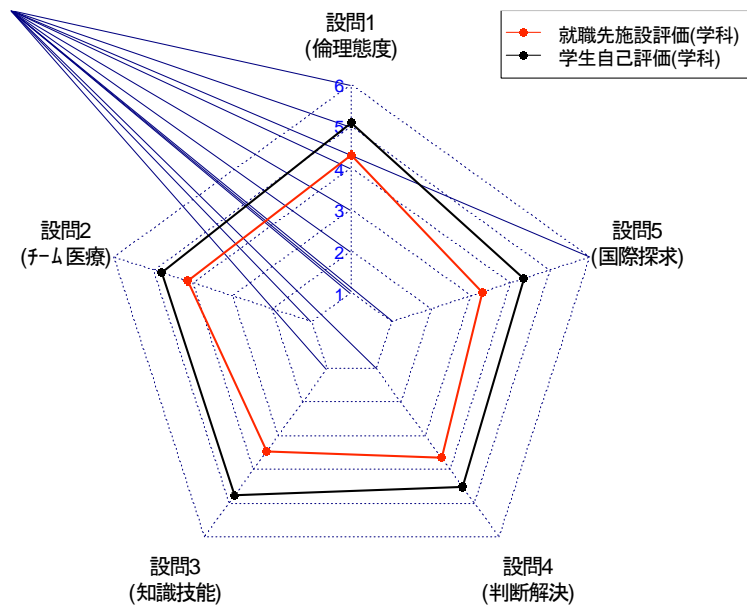


図2-8. 放射線学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 設問毎の回答割合

表2-7. 放射線学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 基本統計量

放射	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5
平均値	4.29	4.12	3.47	3.65	3.29
標準偏差	0.96	0.90	1.04	1.13	1.27
中央値	4	4	4	4	4
最大値	6	6	5	5	5
最小値	2	2	2	1	1
n	17	17	17	17	17



放射	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5
就職先施設評価 a	4.29	4.12	3.47	3.65	3.29
学生自己評価 b	5.06	4.78	4.77	4.51	4.33
差 a-b	-0.76	-0.67	-1.29	-0.86	-1.04

図 2 - 9 . 放射線学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 評定値の平均値

2-2-4) リハビリテーション学科・理学療法専攻

アンケート調査項目(リハビリテーション学科ディプロマ・ポリシー)を表2-8に示す。

2018年度リハビリテーション学科理学療法専攻4年生を対象としたリハビリテーション学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、設問1～設問7に対する評価値の分布を箱ひげ図にて図2-10に示す。各設問に対する回答の割合を図2-11に示す。

2018年度リハビリテーション学科理学療法専攻4年のリハビリテーション学科ディプロマ・ポリシーに対する就職先施設管理者による評価は、設問4を除いたその他の設問のいずれも、評定値の中央値は「4：最低水準は修得できている」を示しており、学科ディプロマ・ポリシーは概ね達成できていると考えられる。設問2(倫理態度)、設問6(専門技能)、設問7(チーム医療)については、他の設問より評価が高く、「4：最低水準は修得できている」以上の評価を受けた施設が多かった。これらは医療者および専門職業人としての基本的態度を問う項目であり、本学の特徴である客観的臨床能力試験(OSCE)、豊富な臨床実習などを通して得られたものと考えられる。一方、設問4(生涯学習)、設問5(地域貢献)については、上記項目と比較して「3：ある程度修得しているが、最低水準には届かない」の割合が多く、「4：最低水準は修得できている」以上の評価が得られるように教育基盤の整備および教育内容の改善を行う必要があると考える。設問4(生涯学習)についての回答は、他の設問と比較して「2：十分に修得できていない」が多い傾向であった。科学情報の収集技法を問う項目であり、能動的に学ぶ姿勢を促す取り組みを継続していく必要がある。就職先施設評価値と学生の自己評価値を比較すると、すべての項目で就職先施設評価値が低く、その差は0.2から0.9程度であり、社会が求める水準について教育を通して学生に伝えていく必要があると考える。

表 2-8. アンケート調査の設問項目 (リハビリテーション学科ディプロマ・ポリシー)

設問 1 (専門知識)	医療人として、専門分野の学修内容について知識を修得し、周辺科学領域の専門家と協調しリハビリテーションを学問として深化させることができる能力が身についていますか。
設問 2 (倫理態度)	患者心理を理解することができ、多様な価値観の存在を認識共感し、また、患者の尊厳を重んじ、倫理的配慮に基づいた責任説明を果たす個別対応ができる専門職業人としての幅広い教養および基本的態度が身についていますか。
設問 3 (科学行動)	対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価するための情報の統合と適確な判断を行えるように理学療法および作業療法の専門領域において、必要な行動を示すことができるようになっていきますか。
設問 4 (生涯学習)	最新の科学情報を収集し社会の医療ニーズの変化に対応でき、生涯を通して理学療法・作業療法を臨床科学として自らを高め、効果測定や治療概念・技術の開発など臨床研究を発展させることができるようになっていきますか。
設問 5 (地域貢献)	患者および地域住民の健康に関連する生活上の諸課題を解決するため治療、予防、健康維持増進など健康障害からの回復に寄与するため、医療人として科学的根拠に基づき責任をもった行動をとることができるようになっていきますか。
設問 6 (専門技能)	専門的な技能を身につけ、患者もしくは医療従事者に対して適確かつ安全に適用することができるようになっていきますか。
設問 7 (チーム医療)	組織運営に必要な知識・技術・態度を修得し、保健・医療・福祉の諸制度を総合的に理解でき、チーム医療としてメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができるようになっていきますか。

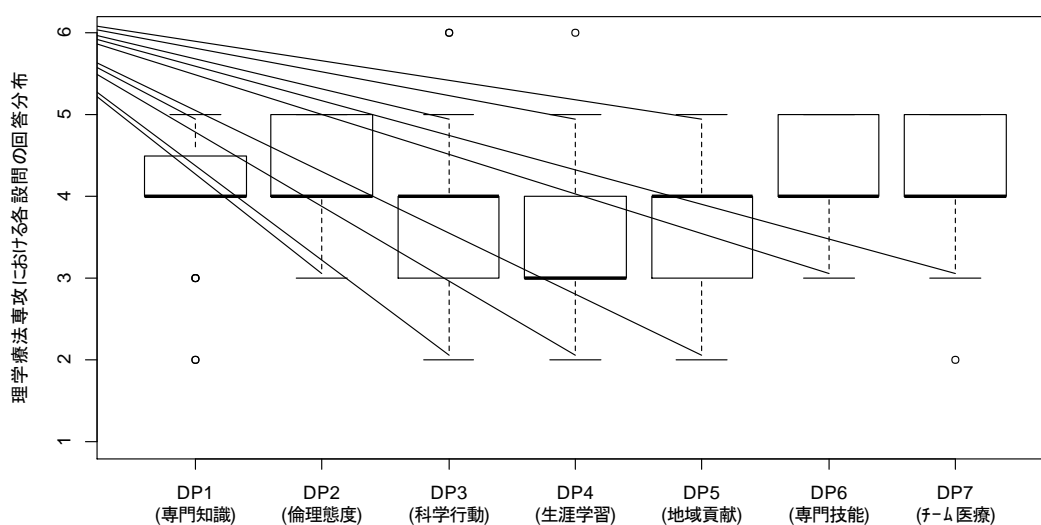


図 2-10. リハビリテーション学科理学療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果
回答分布

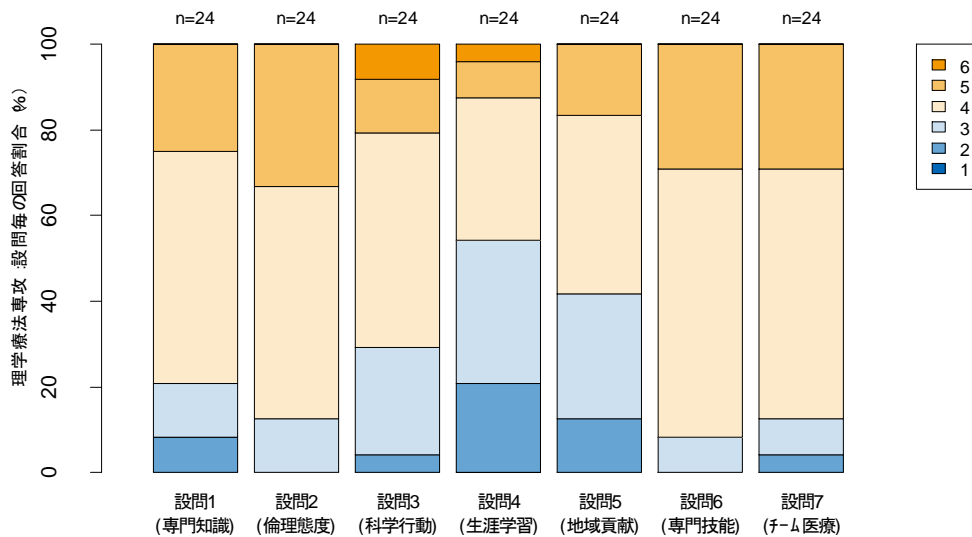
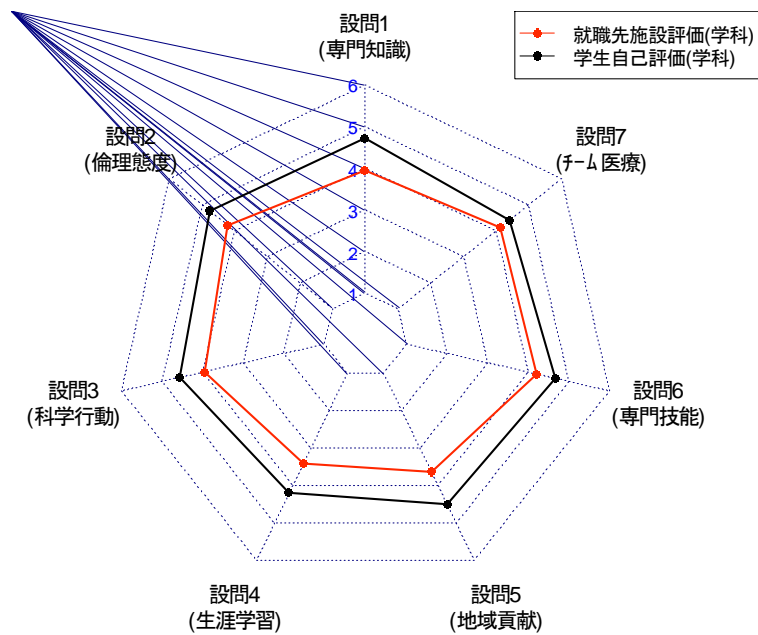


図2-11. リハビリテーション学科理学療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果
設問毎の回答割合

表2-9. リハビリテーション学科理学療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果
基本統計量

リ理学	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7
平均値	3.96	4.21	3.96	3.42	3.63	4.21	4.13
標準偏差	0.84	0.64	0.93	1.04	0.90	0.58	0.73
中央値	4	4	4	3	4	4	4
最大値	5	5	6	6	5	5	5
最小値	2	3	2	2	2	3	2
n	24	24	24	24	24	24	24



リハ・理学	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7
就職先施設評価 a	3.96	4.21	3.96	3.42	3.63	4.21	4.13
学生自己評価 b	4.73	4.77	4.57	4.20	4.50	4.67	4.42
差 a-b	-0.77	-0.56	-0.61	-0.78	-0.88	-0.46	-0.29

図 2-12. リハビリテーション学科理学療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果
 評定値の平均値

2-2-5) リハビリテーション学科・作業療法専攻

アンケート調査項目(リハビリテーション学科ディプロマ・ポリシー)を表2-8に示す。

2018年度リハビリテーション学科作業療法専攻4年生を対象としたリハビリテーション学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、設問1～設問7に対する評価値の分布を箱ひげ図にて図2-13に示す。各設問に対する回答の割合を図2-14に示す。

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、設問ごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表2-10に示す。設問1～設問7について、回答された評定値の平均値および学生自己評価調査における各設問の回答の平均値を合わせてレーダーチャートとして図2-15に示す。

2018年度リハビリテーション学科作業療法専攻4年のリハビリテーション学科ディプロマ・ポリシーに対する就職先施設管理者による評価は、いずれの設問の評定値の中央値は「4：最低水準は修得できている」を示しており、学科ディプロマ・ポリシーは概ね達成できていると考えられる。設問2(倫理態度)、設問6(専門技能)については、他の設問より評価が高く、「4：最低水準は修得できている」以上の評価を受けた施設が多かった。これらは医療者および専門職業人としての基本的態度などを問う項目であり、本学の特徴である客観的臨床能力試験(OSCE)、豊富な臨床実習などを通して得られたものと考えられる。一方、設問4(生涯学習)、設問5(地域貢献)については、上記項目と比較して「3：ある程度修得しているが、最低水準には届かない」、「1：全く修得できていない」の割合が多く、「4：最低水準は修得できている」以上の評価が得られるように教育基盤の整備および教育内容の改善を行う必要があると考える。すべての項目で就職先施設評価値が低く、その差は0.3から0.8程度であり、社会が求める水準について教育を通して学生に伝えていく必要があると考える。

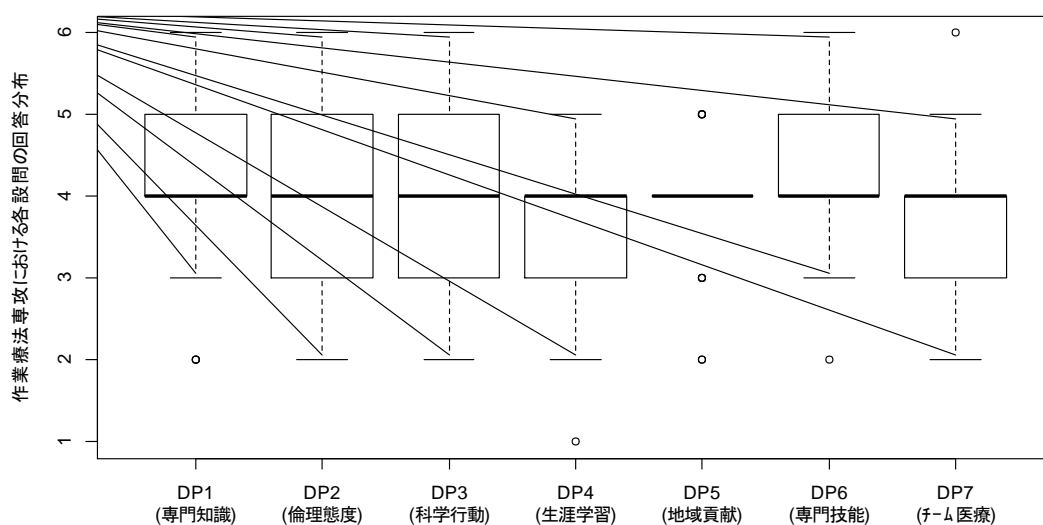


図2-13. リハビリテーション学科作業療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果
回答分布

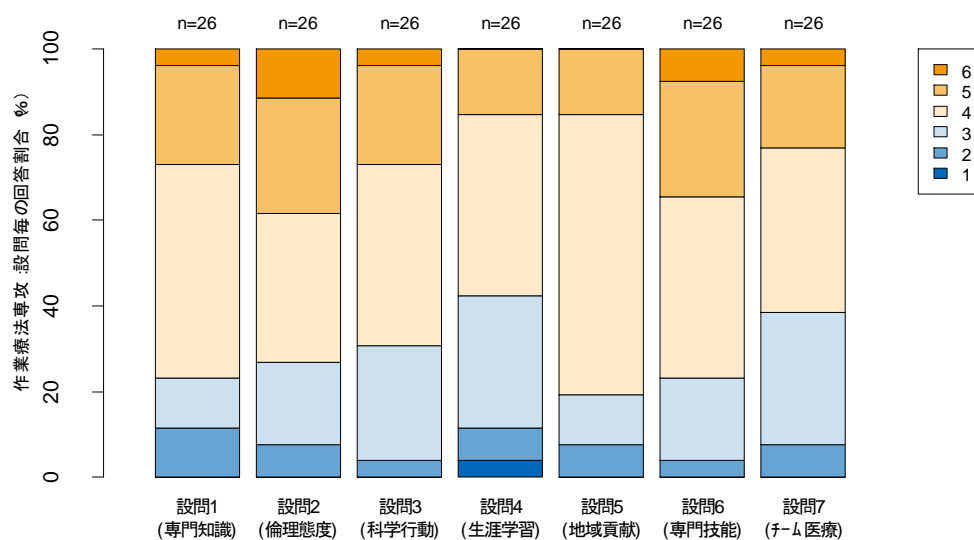
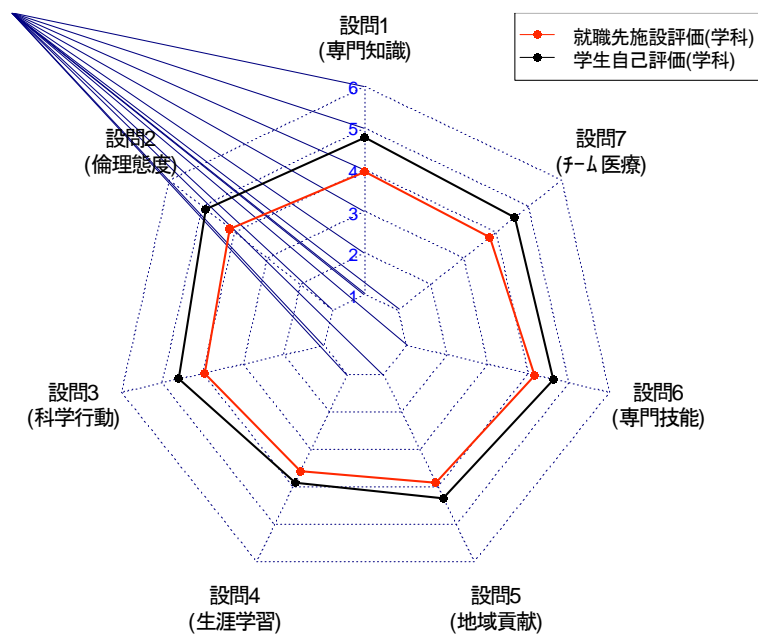


図 2-14. リハビリテーション学科作業療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果
設問毎の回答割合

表 2-10. リハビリテーション学科作業療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果
基本統計量

リ作業	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7
平均値	3.96	4.15	3.96	3.58	3.88	4.15	3.81
標準偏差	0.98	1.10	0.90	0.97	0.75	0.95	0.96
中央値	4	4	4	4	4	4	4
最大値	6	6	6	5	5	6	6
最小値	2	2	2	1	2	2	2
n	26	26	26	26	26	26	26



リハ・作業	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7
就職先施設評価 a	3.96	4.15	3.96	3.58	3.88	4.15	3.81
学生自己評価 b	4.77	4.90	4.58	3.90	4.29	4.62	4.56
差 a-b	-0.81	-0.75	-0.62	-0.33	-0.40	-0.46	-0.75

図 2-15. リハビリテーション学科作業療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果
 評定値の平均値

2-2-6) 臨床工学科

アンケート調査項目（臨床工学科ディプロマ・ポリシー）を表2-11に示す。

2018年度臨床工学科卒業生を対象とした臨床工学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、設問1～設問5に対する評価値の分布を箱ひげ図にて図2-16に示す。各設問に対する回答の割合を図2-17に示す。

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、設問ごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表2-12に示す。設問1～設問5について、回答された評定値の平均値および学生自己評価調査における各設問の回答の平均値を合わせてレーダーチャートとして図2-18に示す。

2018年度臨床工学科卒業生の臨床工学科ディプロマ・ポリシーに対する就職先施設管理者による評価は、設問1～設問5のいずれも評定値の平均値はおおむね「4：最低水準は修得できた」であった。中央値は「4：最低水準は修得できた」を示し、学科ディプロマ・ポリシーは最低限達成できている状況であった。また、それぞれの評定値の平均値は、学生自己評価調査の平均値より約1ポイント低かった。設問2および設問5の臨床工学技士として必要な基礎知識、そして、社会への貢献について、卒業生は修得できていると評価されているが、現場にとっては最低水準からやや不足していると評価されており、双方の間に若干のギャップが認められており、教育内容のさらなる充実を検討し改善していく必要があると考える。設問3および設問4の回答は、就職先の評価平均値よりやや高いが、「最低水準は修得できた」の評価域であった。生涯学習やチーム医療は医療人としての基本的素養であるのでさらなる工夫が求められていると考える。また、就職先のニーズに十分に答えられるように、能動的な行動を養う工夫が必要と考える。

表2-11. アンケート調査の設問項目（臨床工学科ディプロマ・ポリシー）

設問1 (知識技能)	臨床工学技術領域に従事するための基本的な知識・技能が身につけていますか。
設問2 (医工統合)	安全な医療を行うために医学知識と工学知識を統合できていますか。
設問3 (生涯学習)	常に向上心を持ち生涯学び続ける事の大切さを理解できていますか。
設問4 (チーム医療)	高い倫理観を基盤とした豊かな人間性を身につけ、他の医療職と協働してチーム医療に貢献しようとする意思をもっていますか。
設問5 (地域貢献)	臨床工学技士に相応しい高い専門性と研究能力を備えようとするとともに医学の進歩と地域・社会福祉の向上に貢献しようとする姿勢ができていますか。

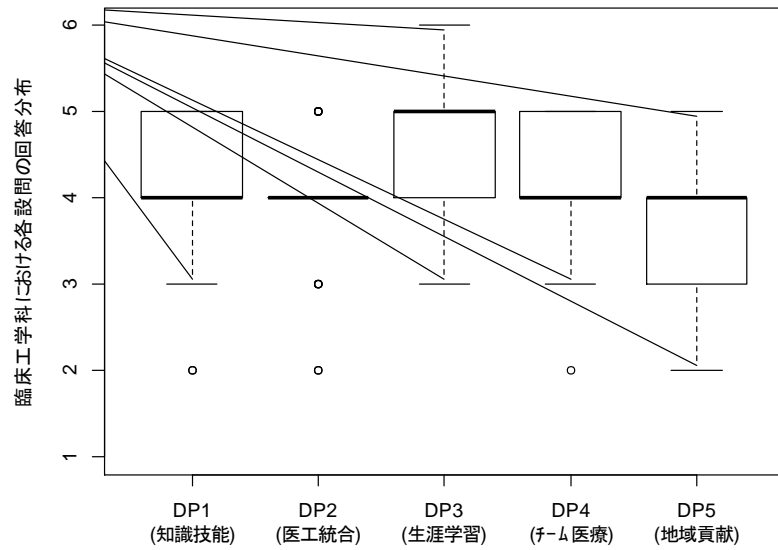


図 2-16. 臨床工学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 回答分布

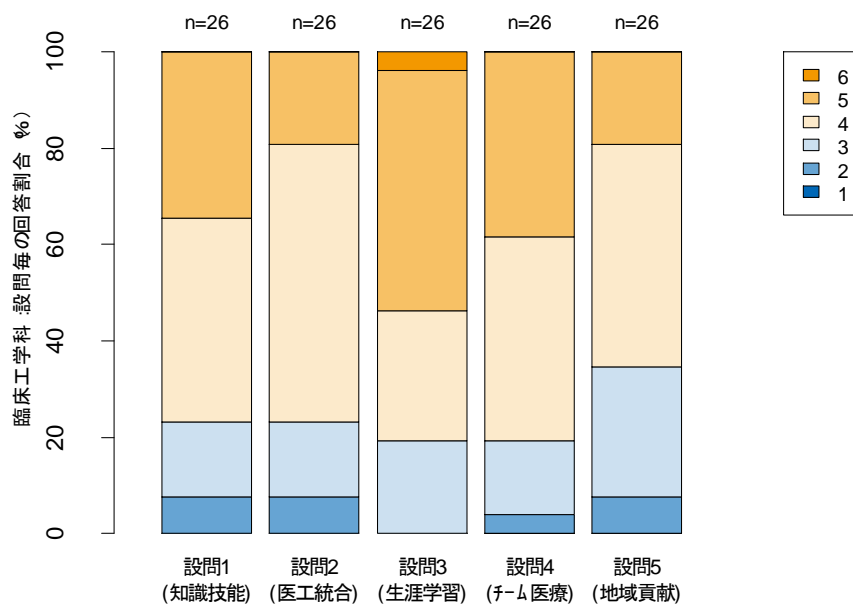
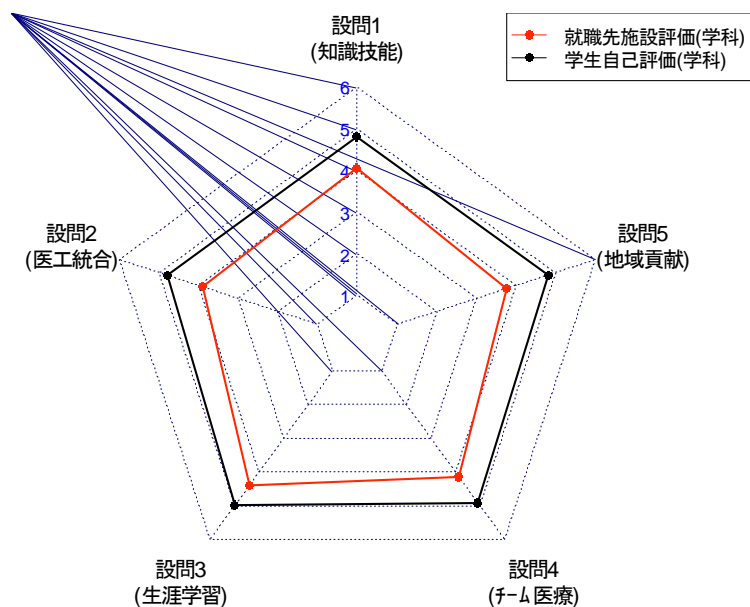


図 2-17. 臨床工学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 設問毎の回答割合

表 2-12. 臨床工学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 基本統計量

臨工	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5
平均値	4.04	3.88	4.38	4.15	3.77
標準偏差	0.90	0.80	0.84	0.82	0.85
中央値	4	4	5	4	4
最大値	5	5	6	5	5
最小値	2	2	3	2	2
n	26	26	26	26	26



臨工	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5
就職先施設評価 a	4.04	3.88	4.38	4.15	3.77
学生自己評価 b	4.79	4.78	4.97	4.91	4.81
差 a-b	-0.75	-0.89	-0.58	-0.76	-1.04

図 2-18. 臨床工学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 評定値の平均値

2-2-7) 医療経営情報学科

アンケート調査項目（医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー）を表2-13に示す。

2018年度医療経営情報学科卒業生を対象とした医療経営情報学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、設問1～設問8に対する評価値の分布を箱ひげ図にて図2-19に示す。各設問に対する回答の割合を図2-20に示す。

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、設問ごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表2-14に示す。設問1～設問8について、回答された評定値の平均値および学生自己評価調査における各設問の回答の平均値を合わせてレーダーチャートとして図2-21に示す。

2018年度医療経営情報学科4年の医療経営情報学科ディプロマ・ポリシーに対する就職先施設管理者による評価は、平均値にて比較すると、設問1（分析管理）・設問2（チーム医療）・設問4（診療報酬）・設問7（経営管理）において学生の自己評価よりもおよそ0.4～0.7ポイント低い値を示しており、厳しい評価となった。一方、設問3（生涯学修）・設問5（診療管理）・設問6（医療情報）においては就職先施設管理者による評価の平均値は学生の自己評価より0.2～0.6ポイント高い値を示した。就職先施設管理者による評価の平均値が学生の自己評価よりも高い値を示したのは医療経営情報学科のみであった。

各設問とも就職先施設管理者より「4：最低水準は修得できた」以上の評価を得ており、現行カリキュラムによって、医療事務系従事者としての要求に答える人材育成ができていたことが確認できた。設問5（診療管理）、設問6（医療情報）は、他の設問に比べ高い評価（中央値は「5：概ね修得できた」）を得た。2018年度4年生は全員が診療情報管理士認定試験に合格しており、これを反映する結果と考えられる。また、設問6（医療情報）の学生自己評価は他の設問に比べ評価値は低かったが、就職先施設管理者からは0.58ポイント高く評価された。本学科の医療情報教育が医療現場より評価されていると考えられる。一方、設問7（経営管理）の評価の平均値は3.58と就職先施設管理者から最も低く評価された。自己評価との差も0.68ポイントと大きく、医療現場で求められる経営管理の知識レベルに対応すべく、教育内容の改善を継続していく必要がある。

表 2-13. アンケート調査の設問項目（医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー）

設問 1 (分析管理)	医療の質向上に貢献することができる情報分析能力やマネジメント能力が身についていますか。
設問 2 (チーム医療)	医療人としてふさわしい高い倫理観を身につけ、チーム医療の一員として問題解決にあたるためのコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が身についていますか。
設問 3 (生涯学習)	社会の変化や医療の進歩に対応して自らの専門性を発揮できるよう生涯学習を続ける意欲が身についていますか。
設問 4 (診療報酬)	診療報酬請求事務に関する知識と基礎的能力が身についていますか。
設問 5 (診療管理)	診療情報管理士認定試験に合格できる知識と技能の水準に達していますか。
設問 6 (医療情報)	医療情報技師能力検定試験に合格できる知識と技能の水準に達していますか。
設問 7 (経営管理)	経営・管理に関する知識を医療に応用する基礎的能力が身についていますか。

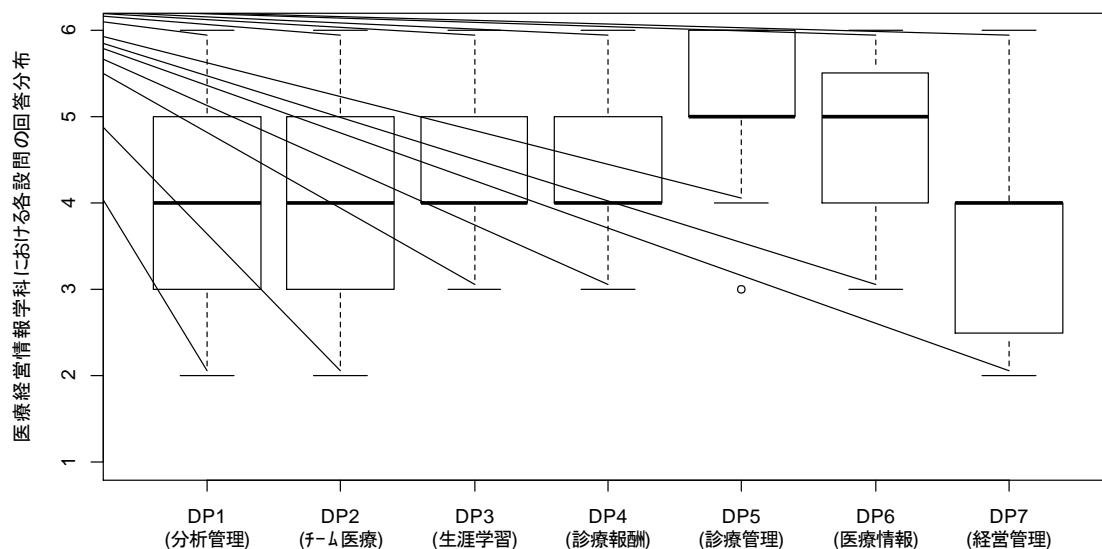


図 2-19. 医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 回答分布

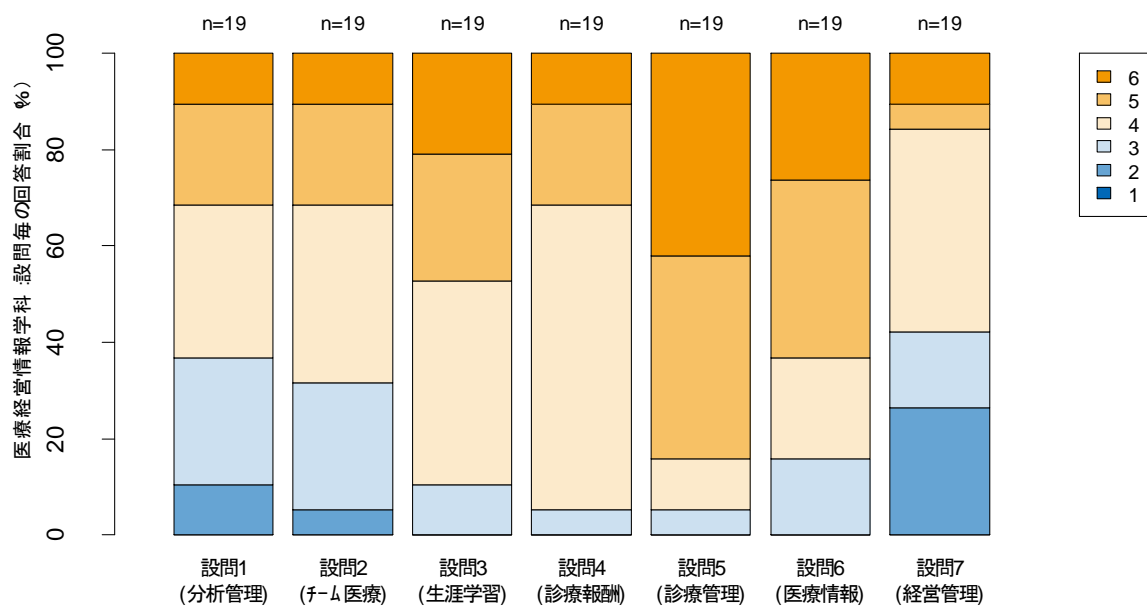
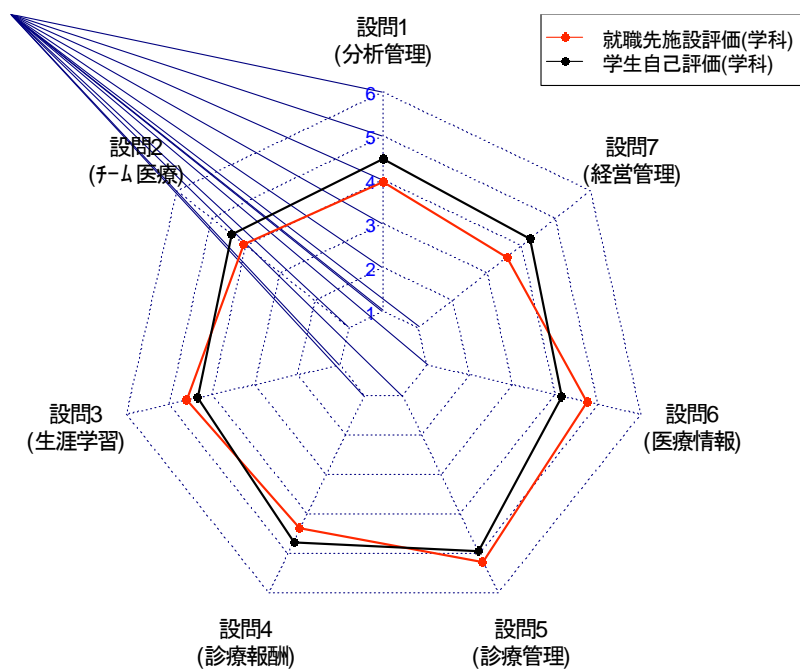


図 2-20. 医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 設問毎の回答割合

表 2-14. 医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 基本統計量

医経	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7
平均値	3.95	4.05	4.58	4.37	5.21	4.74	3.58
標準偏差	1.15	1.05	0.94	0.74	0.83	1.02	1.23
中央値	4	4	4	4	5	5	4
最大値	6	6	6	6	6	6	6
最小値	2	2	3	3	3	3	2
n	19	19	19	19	19	19	19



医経	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7
就職先施設評価 a	3.95	4.05	4.58	4.37	5.21	4.74	3.58
学生自己評価 b	4.47	4.40	4.34	4.71	4.95	4.16	4.26
差 a-b	-0.53	-0.34	0.24	-0.34	0.26	0.58	-0.68

図 2-21. 医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 評定値の平均値

3. 参考資料

2018 年度医療科学部卒業生の就職先施設に対し、検査・放射・臨工・医経の各学科は図 3-1 の依頼文、看護学科は図 3-2、リハビリテーション学科は図 3-3 の依頼文を送付し、医療科学部ディプロマ・ポリシーおよび各学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度をアンケート調査した。

2019 年 9 月 吉日	
〇〇〇〇〇病院 採用ご担当者様	藤田医科大学 医療科学部 学 部 長 齋藤 邦明 IR 推進センター長 橋本 修二
医療科学部卒業生に関する到達度アンケート ディプロマポリシーに関する調査のお願い（依頼書）	
<p>平素は本学の教育に関しまして格別なるご理解とご指導を賜り、深くお礼申し上げます。さて、昨年度、貴院でご採用頂きました本学の医療科学部卒業生（臨床検査学科、放射線学科、臨床工学科、医療経営情報学科）を対象に、調査を実施したくご協力をお願い致します。在学中の医療科学部及び学科別教育理念（ディプロマ・ポリシー）について、これらの素養がどの程度身についているか、就職先である各施設側より評価をしていただくものです。既に、採用いただいた学生は、卒業時に 4 年間で振り返り自己評価を終えており、卒業後数カ月経過したこの時点で、各就職先にて第三者評価をお願いしたく存じます。評価につきましては、配属先の上長にご回答いただきますようお願いいたします。この調査は文部科学省が進める私立大学改革総合支援事業に沿ったものであり、業務多忙な中お手数をおかけ致しますが、ご協力賜りますようお願い致します。</p>	
- 記 -	
調査内容：本学を卒業した学生の就職先へのディプロマ・ポリシー調査 回答期間：本書到着日 ～ 2019 年 9 月 30 日（月） 調査対象：2019 年 4 月採用の本学卒業生 同一学科（同一職種）で、複数の学生をご採用頂いている場合は、全体的な評価をお願い致します。	
以 上	
同封書類： 1. 医療科学部 ディプロマ・ポリシー アンケート用紙：1 通 2. 職種別 ディプロマ・ポリシー アンケート用紙：1 通 3. 返信用封筒：1 通	
お問い合わせ窓口： 藤田医科大学 事務局 総務部 学生支援課 キャリア支援担当 (TEL 0562-93-9864, FAX 0562-93-7211)	

図 3-1. 卒業生就職先施設へのディプロマ・ポリシー到達度アンケート調査の依頼文
(臨床検査学科・放射線学科・臨床工学科・医療経営情報学科)

2019年8月吉日

〇〇〇〇〇〇病院
看護部長 様

藤田医科大学 保健衛生学部
学 部 長 金田 嘉清
IR 推進センター長 橋本 修二

保健衛生学部卒業生に関する到達度アンケート
ディプロマポリシーに関する調査のお願い（依頼書）

平素は本学の教育に関しまして格別なるご理解とご指導を賜り、深くお礼申し上げます。さて、今年度貴院でご採用頂きました本学の保健衛生学部卒業生（看護学科、リハビリテーション学科理学療法専攻・作業療法専攻）を対象に、調査を実施したくご協力をお願い致します。在学中の保健衛生学部及び学科別教育理念（ディプロマ・ポリシー）について、これらの素養がどの程度身についているか、就職先である各施設側より評価をしていただくものです。既に、採用いただいた学生は、卒業時に4年間を振り返り自己評価を終えており、卒業後数カ月経過したこの時点で、各就職先にて第三者評価をお願いしたく存じます。評価につきましては配属先の上長にご回答いただきますようお願いいたします。この調査は、文部科学省が進める私立大学改革総合支援事業に沿ったものであり、業務多忙な中お手数をおかけ致しますが、ご協力賜りますようお願い致します。

－ 記 －

調査内容：本学を卒業した学生の就職先へのディプロマ・ポリシー調査

調査期間：本書到着日～2019年9月30日（月）

調査対象：2019年4月採用の本学卒業生

同一学科（同一職種）で、複数の学生をご採用頂いている場合は、全体的な評価をお願い致します。

以 上

同封書類：

1. 保健衛生学部 ディプロマ・ポリシー アンケート用紙：1通
2. 職種別 ディプロマ・ポリシー アンケート用紙：1通
3. 返信用封筒：1通

お問い合わせ窓口：

藤田医科大学 事務局総務部 学生支援課 キャリア支援担当
(TEL 0562-93-9864, FAX 0562-93-7211)

図3-2. 卒業生就職先施設へのディプロマ・ポリシー到達度アンケート調査の依頼文
(看護学科)

2019年9月吉日

〇〇〇〇〇〇病院

病院長 様

藤田医科大学 保健衛生学部

学 部 長 金田 嘉清

IR 推進センター長 橋本 修二

保健衛生学部卒業生に関する到達度アンケート
ディプロマポリシーに関する調査のお願い（依頼書）

平素は本学の教育に関しまして格別なるご理解とご指導を賜り、深くお礼申し上げます。さて、貴院でご採用頂きました本学の保健衛生学部卒業生（看護学科、リハビリテーション学科理学療法専攻・作業療法専攻）を対象に、調査を実施したくご協力をお願い致します。在学中の保健衛生学部及び学科別教育理念（ディプロマ・ポリシー）について、これらの素養がどの程度身についているか、就職先である各施設側より評価をしていただくものです。既に、採用いただいた学生は、卒業時に4年間を振り返り自己評価を終えており、卒業後数カ月経過したこの時点で、各就職先にて第三者評価をお願いしたく存じます。評価につきましては配属先の上長にご回答いただきますようお願いいたします。この調査は、文部科学省が進める私立大学改革総合支援事業に沿ったものであり、業務多忙な中お手数をおかけ致しますが、ご協力賜りますようお願い致します。

－ 記 －

調査内容：本学を卒業した学生の就職先へのディプロマ・ポリシー調査

回答期間：本書到着日～2019年9月30日（月）

調査対象：貴院在籍の本学卒業生（おおむね3年目迄）

同一学科（同一職種）で、複数の学生をご採用頂いている場合は、全体的な評価をお願い致します。

以 上

同封書類：

1. 保健衛生学部 ディプロマ・ポリシー アンケート用紙：1通
2. 職種別 ディプロマ・ポリシー アンケート用紙：1通
3. 返信用封筒：1通

お問い合わせ窓口：

藤田医科大学 事務局 総務部 学生支援課 キャリア支援担当
(TEL 0562-93-9864, FAX 0562-93-7211)

図3-3. 卒業生就職先施設へのディプロマ・ポリシー到達度アンケート調査の依頼文
(リハビリテーション学科)